

iD44 mkII

20in | 24out

オーディオ・インターフェイス

Manual v1.0

AUDIANT

audient iD44mkII

iD44mkIIのご購入ありがとうございます。

まず、audient.com/products/iD44にアクセスして、最新ソフトアプリやファームウェアをダウンロードしてください。

同梱の12VDCは、ワールド・ボルテージ対応のスイッチング電源アダプターです。

付属のプラグを取り付けてお使いください。

同梱物:

- iD44mkII本体
- 12VDC 電源アダプター
- USB - type A & USB - type C cable
- クイック・スタートガイド

ソフトウェア・ダウンロードURL

<https://audient.com/products/audio-interfaces/iD44/downloads/>

日本語マニュアル・ダウンロードURL

<http://allaccess.co.jp/audient/id44mk2/>

主な仕様:

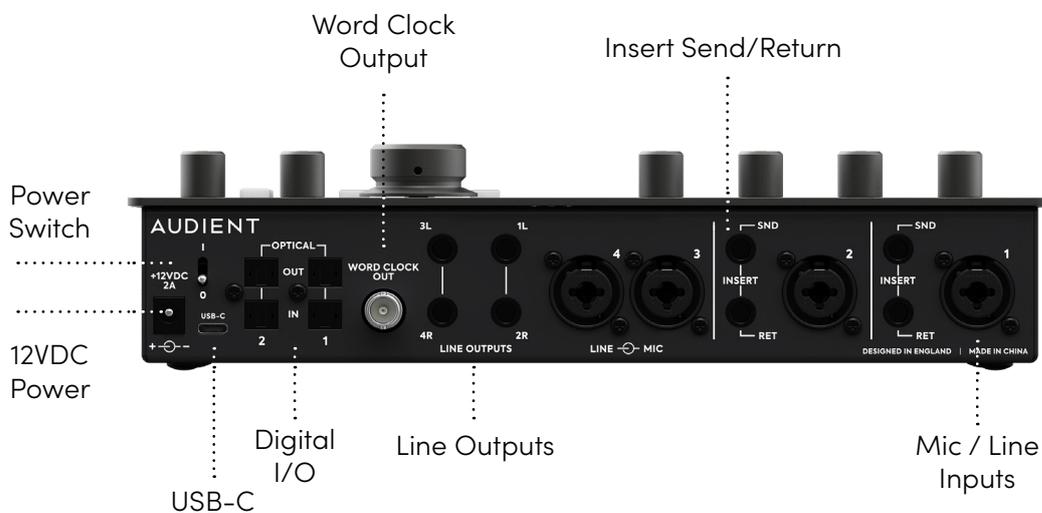
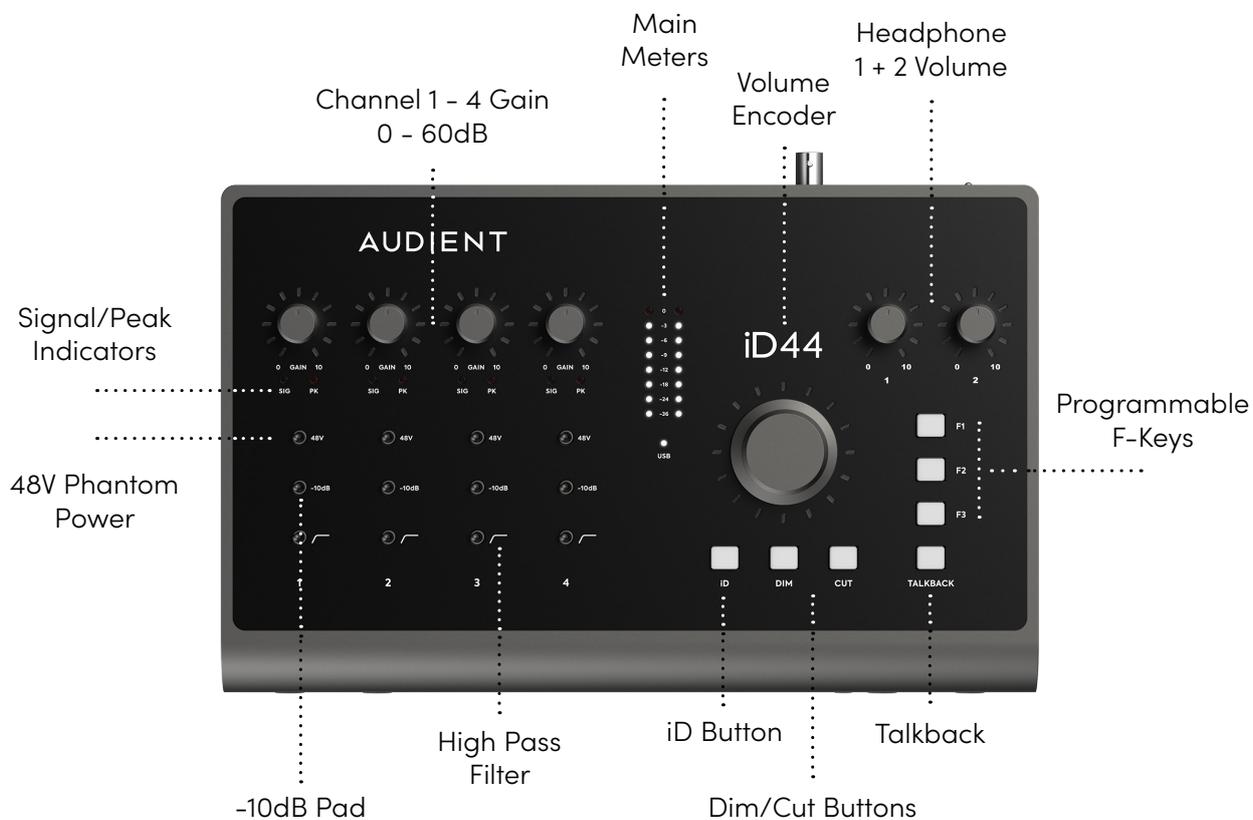
- 4 x クラスA、Audient コンソール・マイクプリアンプ
- 最新高性能AD/DAコンバーター
- デジタル拡張用2 x ADAT 入出力
- 2 x ディスクリット JFET インストルメント入力
- 2 x バランスインサート
- 2 x 独立Class-AB ヘッドフォン出力
- メイン&Altスピーカー出力
- オーディオ・ループバック
- スクロール・コントロール
- 3 x ユーザー設定可能なファンクション・キー
- Talkback、Dim、Cut コントロール
- ロー・レイテンシーDSPミキサー
- ワードクロック出力
- USB 2.0
- 24bit/96kHz
- メタルボディ
- スタンドアローン・モード
- フリーソフトウェア&プラグイン



目次

iD44mkIIの概要	4	DAWの設定	46
安全にご使用頂くための注意	5	Pro Tools セットアップ	47
インストール方法	8	Logic Pro セットアップ	48
MacOS の場合	9	Cubase/Nuendo セットアップ	50
Windows の場合	12	Ableton Live セットアップ	52
ミキサーアプリとファームウェアアップデート	14	トラブルシューティング & FAQ	53
ハードウェアについて	15	スペシフィケーション	56
マイクプリアンプ&ライン入力	16	サイズ	57
楽器入力	17	品質保証に関して	58
バランスインサート&リターン	17		
入力ブロックダイアグラム	18		
入力スペシフィケーション	18		
インサート接続	19		
デジタル入出力	20		
ワードクロック	20		
ライン出力、ヘッドフォン出力	24		
モニターコントロール、トークバック	25		
Kensington ロック	27		
ソフトウェアの概要	28		
入力チャンネル - チャンネルタイプ	29		
チャンネル機能	31		
マスターセクションの機能	32		
システムパネル機能	35		
ルーティング・マトリクス	37		
トークバックソース	38		
ミキサープリセット設定の保存と読み込み	39		
メニュー/タスク・バー・アイコン	40		
スタンドアローンの使用法	41		
ファームウェアのアップデート	41		
オーディオ・ループバック	42		
キーボードショートカット	45		

iD44の概要



安全にご使用頂くための注意

本機の使用を始める前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。

その際はまずaudientのサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

audient@allaccess.co.jp



- 01 マニュアルをよく読んでください。
- 02 マニュアルを保管しましょう。
- 03 『注意や警告』を守りましょう。
- 04 インストラクションには従ってください。
- 05 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
- 06 クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
- 07 ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発生する場所や機材の上で使用しないでください。
- 08 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
- 09 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
- 10 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
- 11 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。
その際はまずサポート: audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

Declaration of Conformities

FCC Part 15B

This apparatus has been tested and found to comply with the limits of a class-A digital device, pursuant to Part 15B of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Re-orient or relocate the receiving antenna
2. Increase the separation between the equipment and receiver
3. Connect the equipment into an outlet on a different circuit from that to which the receiver is connected
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help



We, Audient Ltd, Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944, declare under our sole responsibility that the product iD44 complies with Part 15 of FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference,
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD44, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate CE standards and directives for an audio product designed for consumer use.



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD44, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate UKCA standards and directives for an audio product designed for consumer use.



Audient Ltd has conformed where applicable, to the European Union's Directive EN 63000:2018 on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources

インストール方法

MacOS の場合

動作環境

OS: Mac OS10.11.6 (El Capitan) 以降
CPU: Intel CPU またはApple Silicon CPU
メモリ: 1GB RAM 以上

セットアップ

1. iDソフトウェアをダウンロードする

audient.com/products/iD44から最新ソフトウェアをダウンロードしてください。ダウンロードした.dmgファイル(インストーラー)を開き、画面に従ってアプリケーションのフォルダーにiD Mixerソフトウェアをコピーしてください。

<http://audient.com/products/downloads/iD44>

※ 製品一覧から iD44 を選択しDownloadのタブをクリックします。

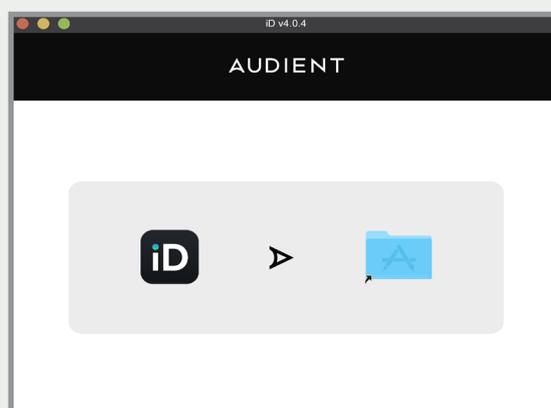
ダウンロードしたアプリをフォルダーにドラッグしてインストールしてください。

2. iD44 とコンピューターを接続する

同梱のUSB ケーブルで、iD44をコンピューターに接続してください。



USB - C



MacOS の場合（続き）

3. ステータスLED

接続が完了すると、“USB”LEDが白色に点灯します。LEDが消えた場合、何らかの問題が発生しています。コンピューターとの接続を確認してください。

正常に接続できない場合は、弊社のサポートまでメールでご連絡ください。

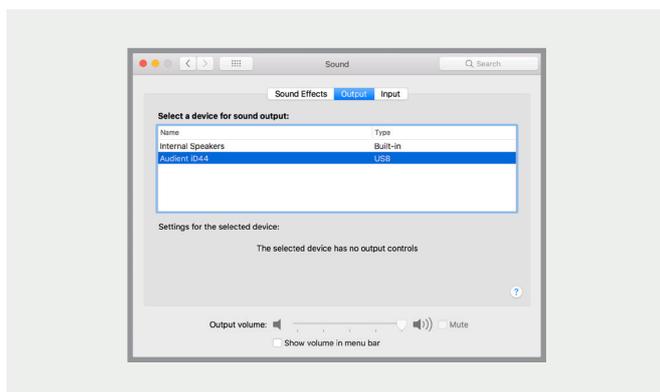


4. 接続の確認

下記のフォルダーにて、コンピューターが正常にiD44を認識しているかを確認することができます。

Macintosh HD → アプリケーション → システム環境設定 → サウンド内「入力」もしくは「出力」タブ

iD44 が I/O デバイスとして設定されているかを確認します。

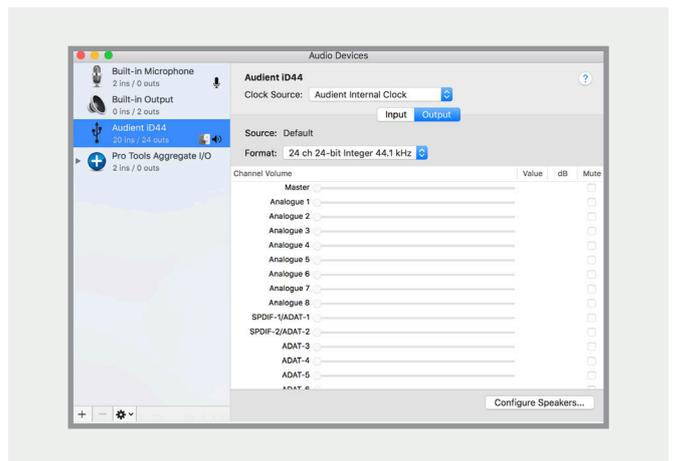


また、Macintosh HD → アプリケーション → ユーティリティ → Audio MIDI設定をチェックすると詳細が確認できます。

ウインドウ → オーディオ装置を表示

20入力/24出力が確認できます。

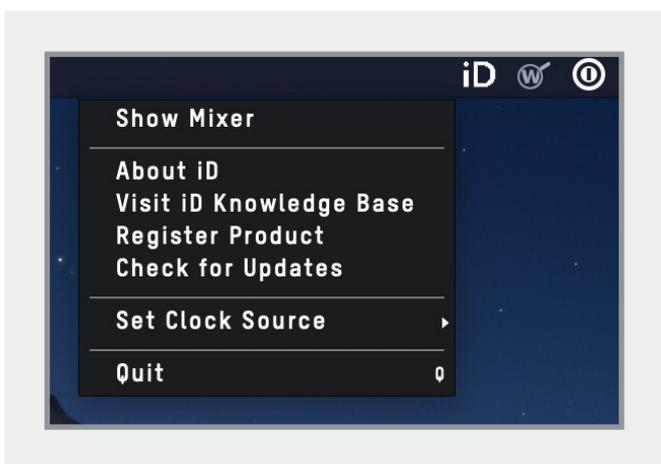
外部クロックソースは「ID Mixer」でクロックソースを設定します。詳しくは23ページをご覧ください。



メニュー/タスクバーアイコン

MacOSでは、右上にあるメニューバーに「iD」アイコンが表示されます。

そこから「iD Mixer」の数々の機能へアクセスできます。



Show Mixer

ミキサーウィンドウが表示されていない場合は、こちらから開くことができます。

Quit

iDミキサーアプリを閉じることができます。

About iD

iDミキサーアプリとファームウェアの現バージョンが確認できます。

Visit iD Knowledge Base

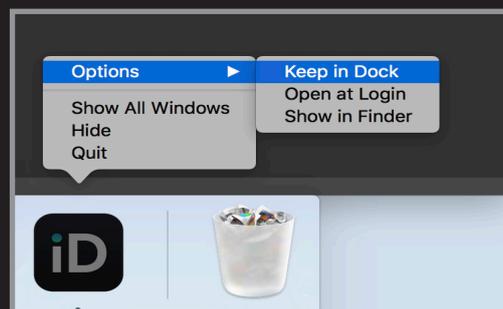
Audient Helpdeskを開けて、ヘルプやFAQが確認できます。

Check for Updates

Audient update serverにアクセスして、iD44ファームウェアのアップデートが確認できます。

Top Tip

Right click on the iD icon in the Dock and select Keep in Dock to have quick access to the iD mixer app at all times.



Windowsの場合

動作環境

OS: Windows 8 以降 (32 or 64 bit)

CPU: Intel Core 2 1.6GHz以上、または同等の
AMD CPU

メモリ: 1 GB RAM 以上

セットアップ

1. ドライバーソフトウェアをインストールする。

以下の手順に従ってソフトウェアのインストールを行ってください。audient.com/products/iD44から最新ソフトウェアをダウンロードして下さい。

2. iD44とコンピューターを接続する。

同梱のUSBケーブルを使用してiD44をコンピューターに接続して下さい。

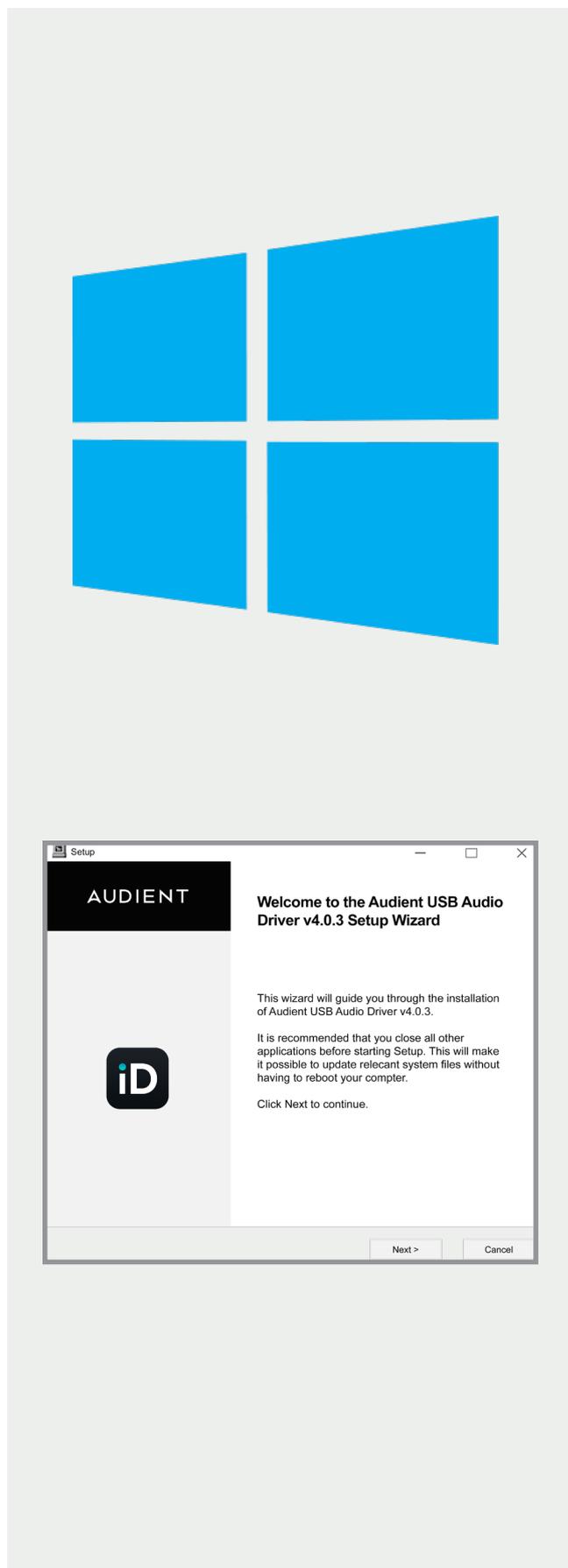
その後、付属のアダプターを電源に接続してiD44へ電源を供給します。

3. iD ミキサーアプリのセットアップ

ダウンロードしたインストーラー(.exe ファイル)をダブルクリックして開き、画面に従ってインストールを進めてください。

4. コンピューターの再起動

すべてのドライバーのインストール完了後、コンピューターを再起動してください。



5. 接続の確認



コンピューターとiD44の正常な接続状態は、USB LEDの点灯で確認できます。

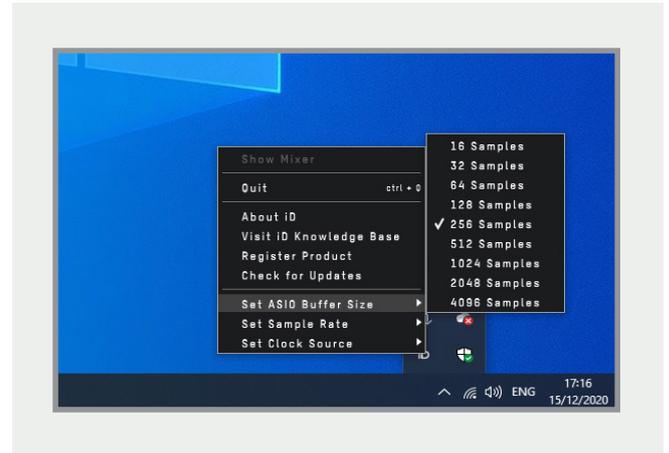
スタートメニュー → コントロール・パネル → ハードウェアとサウンド → サウンド (PC Settings → Control Panel → Hardware) の手順で、接続のダブルチェックが可能です。

iD44がPCに認識されていれば、'Set Default'を押してデフォルト・サウンド・デバイスに設定できます。

iDアイコン

インストールが完了すると、Windows システムトレイにiDアイコンが見つかります。(他のアイコンエリアに隠れている場合があります。):

- 「iD Mixer」は、iD44 が接続されている時のみダブルクリックで開けます。
- 右クリックでサンプルレートやバッファサイズ設定が実行できます。



バッファサイズは、使用しているコンピューターのスペックやプロジェクトの重さに影響されます。

オーディオ再生が不安定な場合は、より大きなバッファサイズをお試しください。

iDアプリとファームウェア・アップデート

iD Mixerアプリケーションの起動

iDミキサーアプリケーションの起動は以下のフォルダで行います。:

Mac OS

Macintosh HD → アプリケーション → iD

Windows

Start → すべてのプログラム → Audient → iD

iDミキサーアプリに関しては、このマニュアルのソフトウェアセクションをご覧ください。

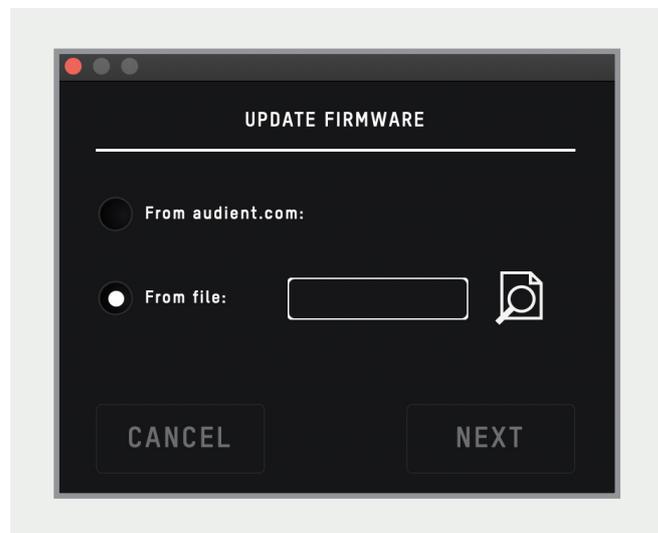
Windowsの場合は、iD44が接続されている時だけ起動します。



ファームウェアのアップデート

Audient では、機能の追加やバグ修正のために、ファームウェアのアップデートを行う場合があります。

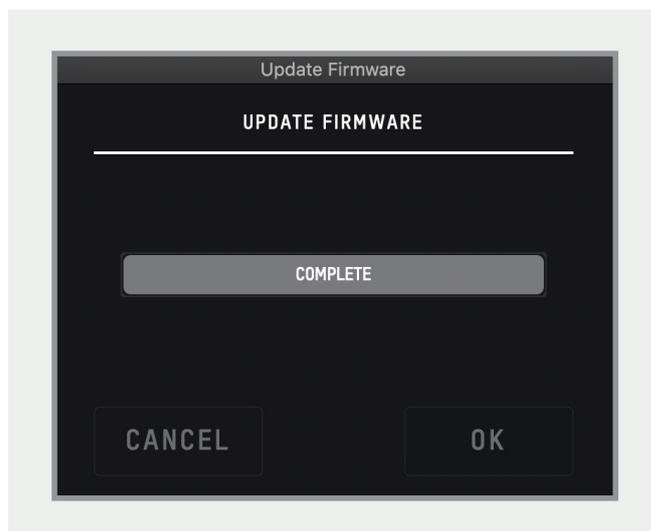
定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることを勧めます。「From file」から、ディスク上に保存された最新ファームウェアがダウンロードできます。



「iD Mixer」のメニューから「Check for Updates」をクリックすると、更新情報が確認できます。

NEXTをクリックするとアップデートが続行されま
す。アップデート中には、何度か iD44 が再起動する
ことがあります。

アップデートが終了したら、iD44の電源をオフにし、
数秒経ってから再び電源をオンにしてください。



ハードウェアについて

マイクプリアンプ&ライン入力

iD44のアナログ入力には、Audientコンソール直系のマイクプリアンプが搭載されています。

ディスクリート・クラスA回路を採用し、低ノイズで極めて歪みの少ないサウンドを生み出します。音質的には、スピード感に溢れ、さらにオープンで正確なディテールの再現が特徴です。

入力端子にはマイク/ラインどちらにも対応できるように、Amphenol製のXLR/TRSコンボ・ジャックを採用しました。



4基のマイクプリアンプの特徴：

- 58dBクリーンゲイン
- 48V(±4V)ファンタム電源 (チャンネル毎/14mA)
- > 2.8k Ω 入力インピーダンス：マイクの種類に関わらず、パンチのあるサウンドが得られるインピーダンスに設定しました。
- 信号&クリップ表示
- -10dB パッド：入力ヘッドルームを高くします。
- ハイパス・フィルター (100Hz 固定)



Ch1とCh2には、アウトボード (外部機器) を接続する為のSEND (センド) &RET (リターン) を備えています。

インストゥルメント入力

本機のフロントサイドにあるCh1とCh2の「D.I.」入力端子は、JFETクラスA/ディスクリート・デザインのインストゥルメント入力です。

JFET回路がギターやベースのサウンドをスムーズでウォームに仕上げます。

このTS（アンバランス・チップ、スリーブ）ジャックに接続すると楽器入力になります。この入力はマイク/ライン入力よりも優先され、チャンネルのパッド、ハイパス・フィルターを經由してから出力されます。

バランスインサート&リターン

Ch1とCh2のマイクプリアンプ回路を經由した入力信号は、インサートのSEND（センド）に送られます。

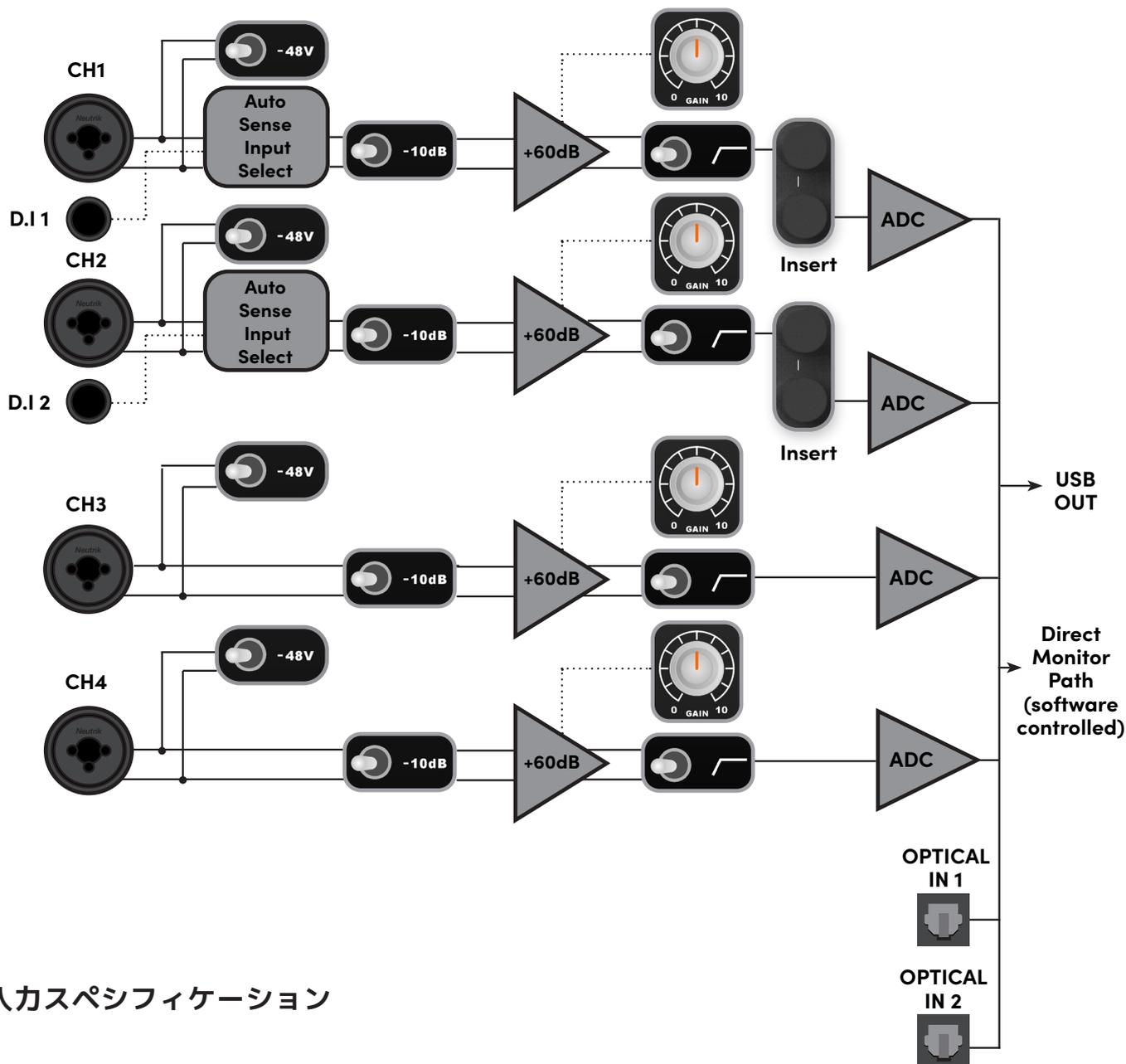
センド/リターン共にバランス入出力回路で、Ch1とCh2の各チャンネルにそれぞれ独立してADコンバーターの前に用意されています。コンプレッサーやEQ等の外部機器をインサート接続して、入力信号を整えることができます。

インサートの活用

インサートを使用しない時、この入出力回路は直結されます。センド/リターンをパッチ接続する必要はありません。また、インサートはリターンに接続した時のみ信号がカットインされるため、センドから出力される信号を平行出力として使用することもできます。



マイクプリ、インサート、A/Dコンバーター、 オプティカル入カブロックダイアグラム



入カ仕様

Microphone Input

XLR コンボフィーメール
 Pin 1: Chassis Ground Pin
 Pin 2: Hot (+ve)
 Pin 3: Cold (-ve)
 入力インピーダンス: >2.8k ohm
 最大入力レベル: +12 dBu

Line Input

1/4" TRS Combi Jack
 Tip: Hot (+ve)
 Ring: Cold (-ve)
 Sleeve: Chassis Ground
 入力インピーダンス: >8k ohm
 最大入力レベル: +12dBu

DI Input

1/4" TS Jack
 Tip: Hot (+ve)
 Sleeve: Ground
 入力インピーダンス: >1Meg ohm

Insert Sends

1/4" TRS Jack
 Tip: Hot (+ve)
 Ring: Cold (-ve)
 Sleeve: Chassis Ground
 出力インピーダンス: >100 ohm
 最大出力レベル: +22 dBu

Insert Return

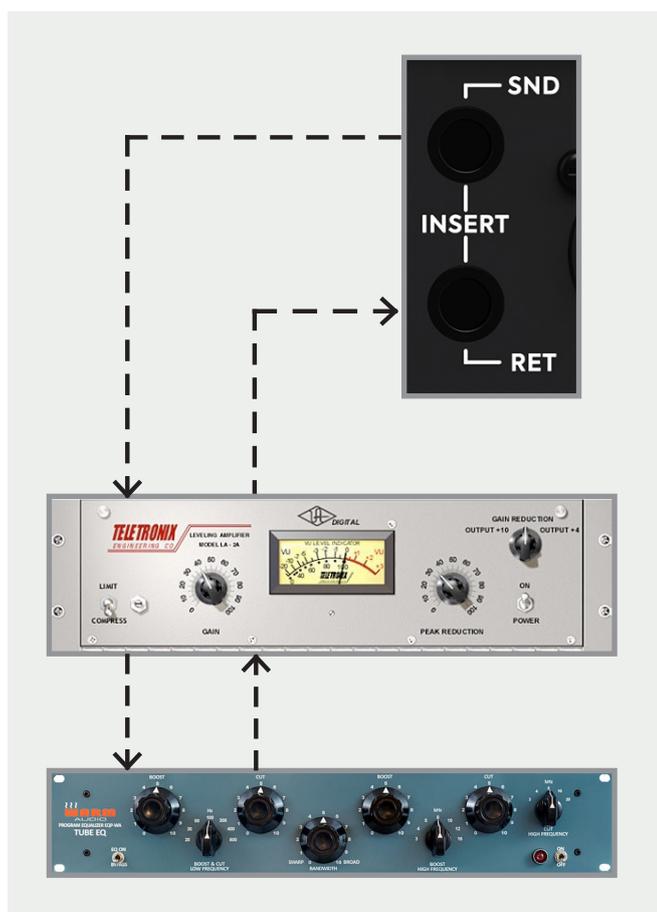
1/4" TRS Jack
 Tip: Hot (+ve)
 Ring: old (-ve)
 Sleeve: Chassis Ground
 入力インピーダンス: >10k ohm
 最大入力レベル: +18 dBu
 デジタルリファレンスレベル: 0dBFS = +18dBu

Optical Inputs

TOSLink オプティカルコネクター
 ADAT: 8 channels @ 48kHz
 ADAT SMUX: 4 channels @ 96kHz
 S/PDIF: 2 Channels @ All sample rates

インサート接続

iD44のSEND (センド) と外部機器の入力、外部機器の出力とiD44のRET (リターン) を接続し、ADコンバージョンの前にコンプレッサー等の外部機器を挿入します。



ADコンバーターへのダイレクト接続

RET (リターン) 端子への信号は、直接にADコンバーター回路に入力されます。この入力、信号経路によるサウンドへの色づけがない、純粋なADコンバーター入力です。

他のマイクプリアンプや外部アウトボードを使用したい場合には、この端子からDAWへ信号入力することをお勧めします。

2ミックスをiD44から出力してコンプレッサー等を経由しリターンに戻す、バス・コンプレッションのような使い方も可能です。

キャリブレーションのレベル: 0dBFS = +18dBu

デジタル入出力

iD44には、2系統のオプティカルのデジタル入出力が搭載されています。各デジタル端子はADAT（最大8ch）とS/PDIF（2ch）どちらにでも使用可能です。

切替えは「iDソフトウェアミキサー」から行います。両フォーマットとも最大サンプルレートは96kHzですが、ADATは88.2kHz/96kHzでの使用では半分の4チャンネルに限定されます。



S/PDIFモードでは、外部デジタル機器との接続や4チャンネルのオーディオ入出力として使用できます。最高サンプリングレートは96kHzです。

ADATモードでは、Audient ASP800のような外部プリアンプを接続して、最大24入力のレコーディングが可能です。ADAT出力はHearback™ systemのようなADAT出力は、ADAT入力を備えたヘッドフォン分配システムまたは8チャンネルDACへの接続も可能です。

88.2kHzまたは96kHzのハイサンプルレートでは、ADATプロトコルの限界から入出力がそれぞれ8チャンネルに限定されます。オプティカル出力のルーティングは、iDミキサーのルーティングマトリクス（Routing Matrix）セクションをご覧ください。

ワードクロック出力

iD44は、複数のデジタル機器のクロックを統制するために、便利なBNC出力端子を装備しています。

この出力からは、本機動作中のサンプルレート(44.1、48、88.2、96kHz)と同じクロック信号が出力されます。内部と外部クロック、どちらも同クロックが出力されます。

ワードクロック設定

外部デジタル機器と接続する際は、それら全てのクロックがシンク（同期）状態になっていることが重要です。そのためにその1台をクロックマスターに設定する必要があります。クロックマスターは1台のみ存在し、その他の機器はマスターに従ってスレーブとして同期します。

マスタークロックは、オプティカル端子又はBNC端子から送られます。クロック信号は“機器の出力→他の機器の入力”の一方方向のみで送られます。

マスタークロックの選択

デジタルセットアップの場合、マスタークロックに最も適しているのは、オーディオ・インターフェースのようにコンピューターに直接接続されているデバイスです。

この場合、DAWソフトウェアを開くと、インターフェースのクロックがプロジェクトにマッチングされます。その後、スレーブ機をマスターのサンプルレートに合わせます。（接続機器によっては異なる場合があります。）

iD44をマスタークロックとして使用する

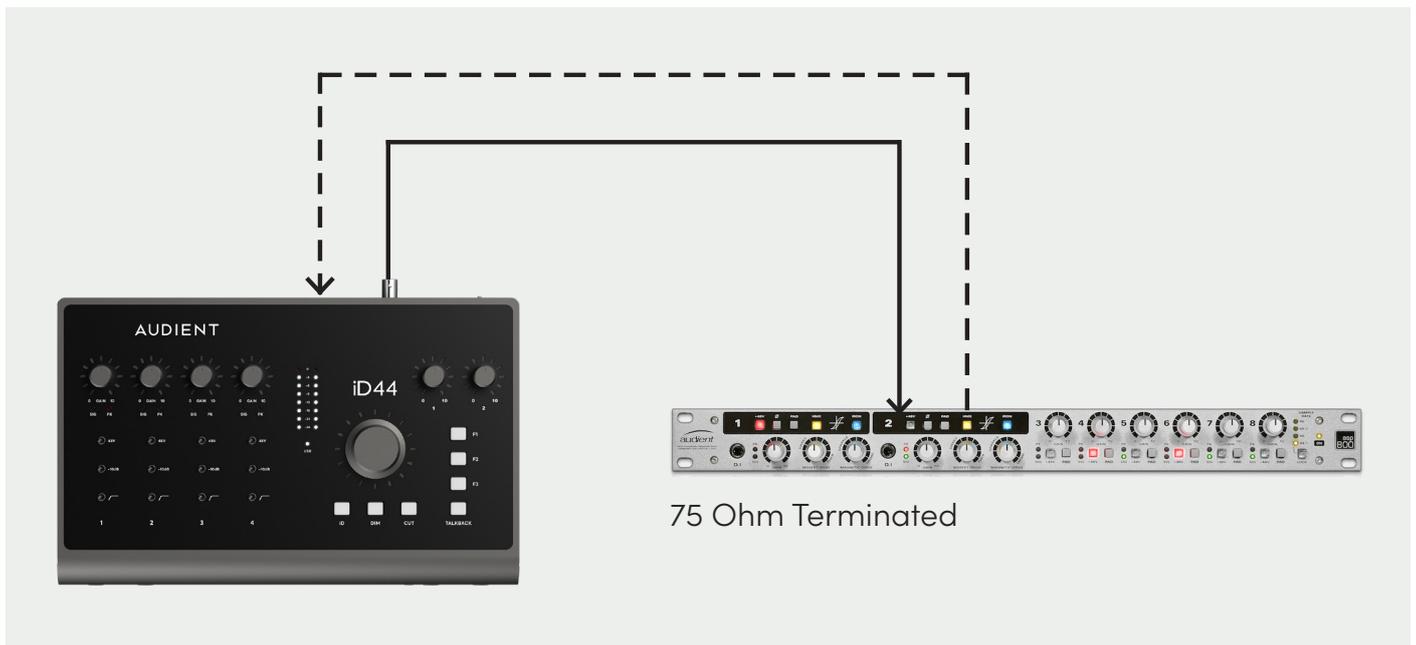
iD44をマスターに設定した場合、クロックはオプティカル端子またはBNC端子を通して送られます。

複数の機器を接続する場合には、BNC端子を使用する事を推奨します。

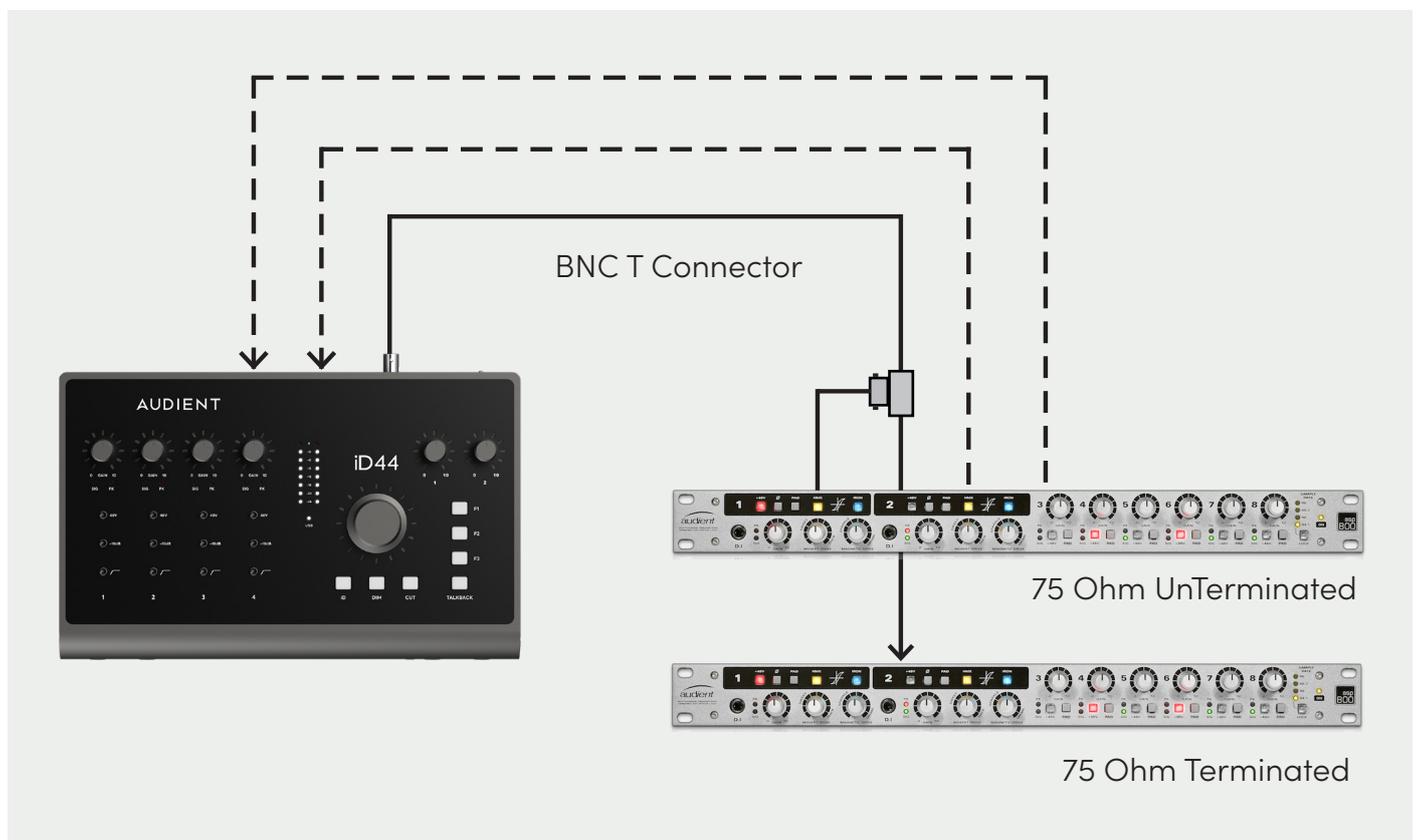
1台のみのクロック接続の場合は、オプティカルポートを使用してTOSlinkケーブル（デジタル）接続が最もシンプルな方法です。

iD44のクロックから他の機器をスレーブ接続する際、複数の機器はBNCを使用してT型コネクタで接続します。それらをデイジーチェーン接続するとシンプルです。デイジーチェーン接続する場合、クロック信号の反射を防ぐため、最後の機器が75Ωでターミネートされていることが必須です。

単一BNC接続



デージーチェーンBNC接続



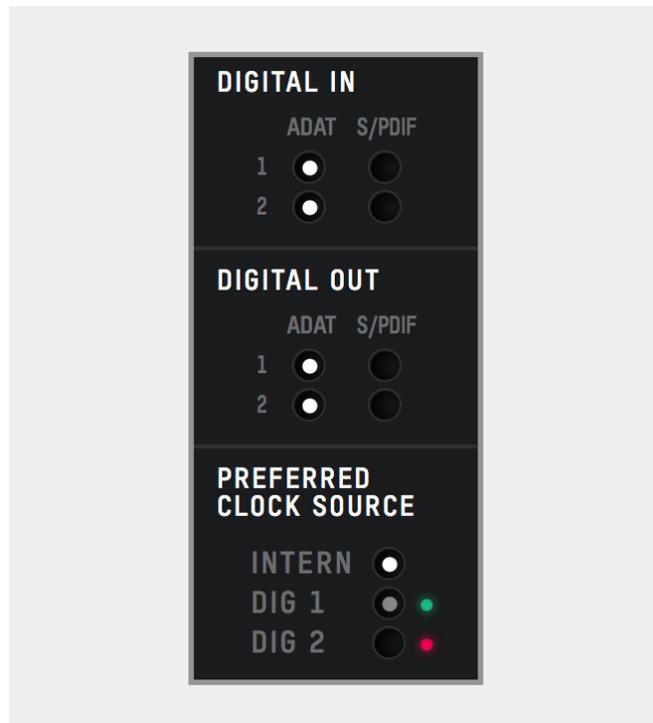
--- → Toslinkケーブル

————— → BNCワードクロックケーブル

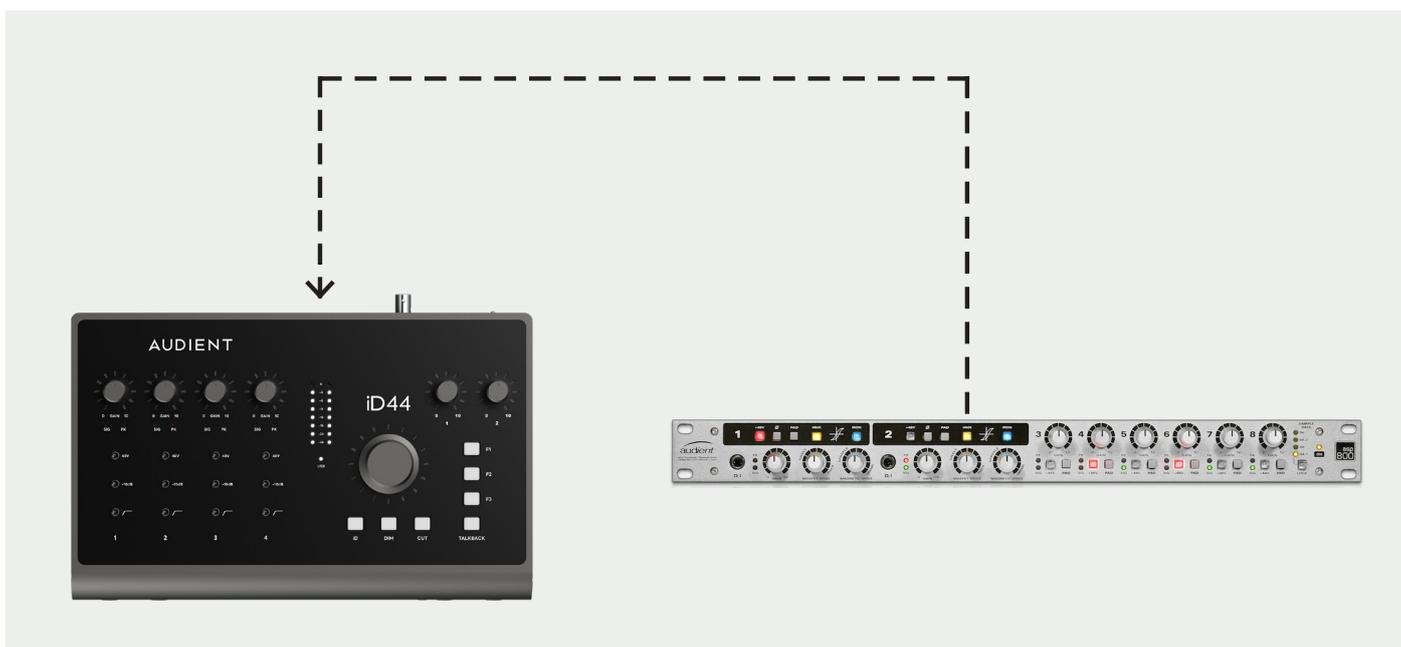
iD44がスレーブクロックを受ける

iD44は外部マスタークロックからのスレーブとして、オプティカル入力でクロック信号を受けることもできます。オプティカル端子のみが外部クロックを受けます。

iD Mixerの中でクロックソースを選択します。ADATまたはS/PDIFの接続外部デバイスのフォーマットも設定します。サンプリングレートがどう設定されているかも確認します。

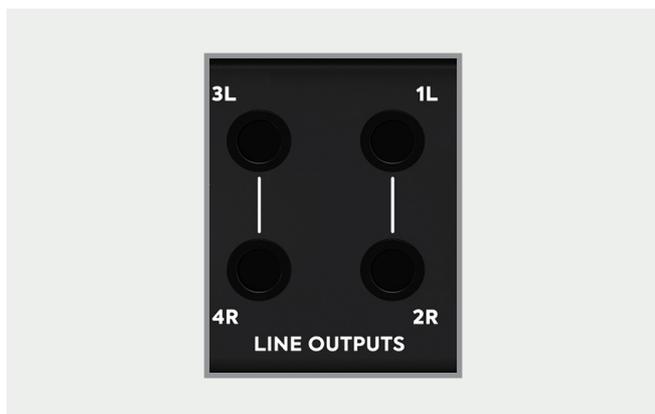


オプティカルポートでクロックを受ける



ライン出力

iD44には2組のモニターに接続できるTRSバランス出力端子があります。これらの出力は、Audientのフラッグシップ・コンソール「ASP8024-HE」のインピーダンス・バランス技術が採用されています。



これらの出力からは高品位のDAC（デジタル/アナログ・コンバーター）を経由したサウンドが送られるため、クリアでリニアなサウンドをモニターから出力できます。

出力アサインは、「iD Mixer」のソフトウェア上で、トラッキングやミックス時の目的に応じて設定します。

このTRS端子に接続する場合は、必ずTRSバランス接続を推奨します。TSアンバランスで接続するとノイズの原因となります。

ヘッドフォン出力

iD44には、2系統の独立DACを備えた高電流型ヘッドフォン・アンプを搭載しました。

出力1は 3.5mm&6.35mmの両サイズのジャックを備え、同信号が同時に出力されます。どちらかにヘッドフォンを接続しても使用できますし、同時使用も可能です。

ヘッドフォン出力2は6.35mmのみの仕様です。



これらのヘッドフォン出力は、ミックスの確認やアーティストのモニター出力として使用できます。

また、これらの出力は広いレンジのヘッドフォン・インピーダンスに対応できますから、様々な機種 of ヘッドフォンで高品位なサウンド・モニタリングが可能です。

モニターコントロール

iD44にはAudientコンソールと同じようなモニター機能を備えています。

メインとオルタナティブ・スピーカーのステレオ・ボリューム・コントロールが可能です。



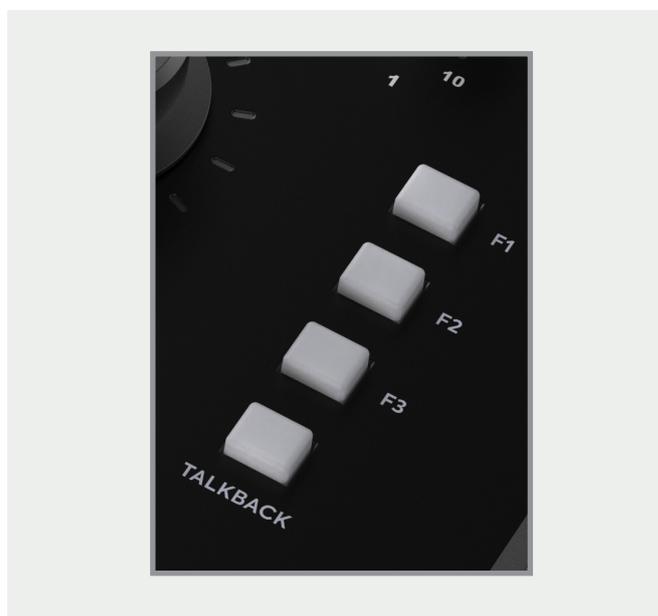
DIM & CUTスイッチはモニター・ボリューム・ノブに直結されています。また、DIM & ALTレベル・トリムはiD Mixerアプリで調整できます。

これらの機能は、プログラム可能なFキーにアサインして使用できます。

モニターコントロールの特徴

- ボリュームコントロール
- FキーにアサインできるALTスピーカーレベル (プログラム可能)
- プログラム可能なDIMレベル
- CUT
- FキーにアサインできるMono Sum
- Fキーにアサインできる極性リバーブスイッチ

Polarity reverse (極性リバーブ) とMono Sum (モノサム) で、ミックス出力音源のモノ再生がモニターできる便利な機能です。



iDボタン



iDボタンは、iD44を特筆すべき機能の「Scroll Control モード」へアサインします。

エンコーダーにスクロール・ホイール機能をアサインして、DAWのオートメーション等、様々な機能へのアクセスが可能になります。

使用するDAWやプラグインによってスクロールの反応が変わります。パラメーターへの変更が急すぎたり遅すぎる場合は、コンピューター側でスクロールのスピードを調整してください。

トークバック

トークバックへのアサインは、4アナログ入力&16デジタル入力、どのチャンネルからも選択することができます。トークバックにアサインされたチャンネルは、Cueミックスを通してアーティストに送られます。

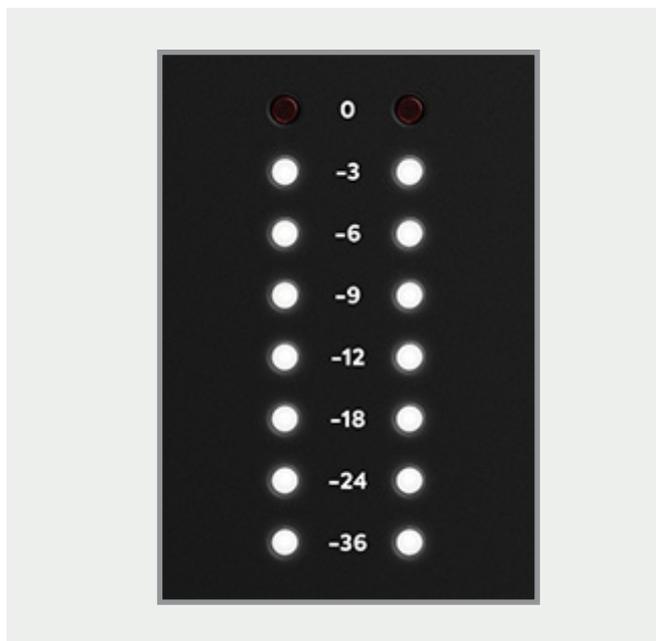


また、トークバックにアサインしたチャンネルを別の機種に送り、その機種のマイク入力として使用したり、別のオーディオ・インターフェースに同時に信号を送ることもできます。

詳しい設定方法は‘Software’ (ソフトウェア) セクションをご覧ください。

LEDレベルモニターディスプレイ

iD Mixerアプリのプレイバックレベルを表示するLEDメーターです。入力レベルについては、DAWのメーターを参照することをお勧めします。



ケンジントンロック

iD44を学校やその他のパブリックユースする場合、盗難を防ぐためにロック用のケンジントンロック穴を設けました。



ステータスLED

コンピューターとの接続状態を表示します。安定した点灯は正常な接続状態を表します。



ソフトウェアの概要

入力チャンネルタイプ

iD Mixerアプリケーションには3つのタイプの入力があります。:

Mic入力

信号が入力される4つのアナログ入力

デジタル入力

オプティカル端子に入力された信号。

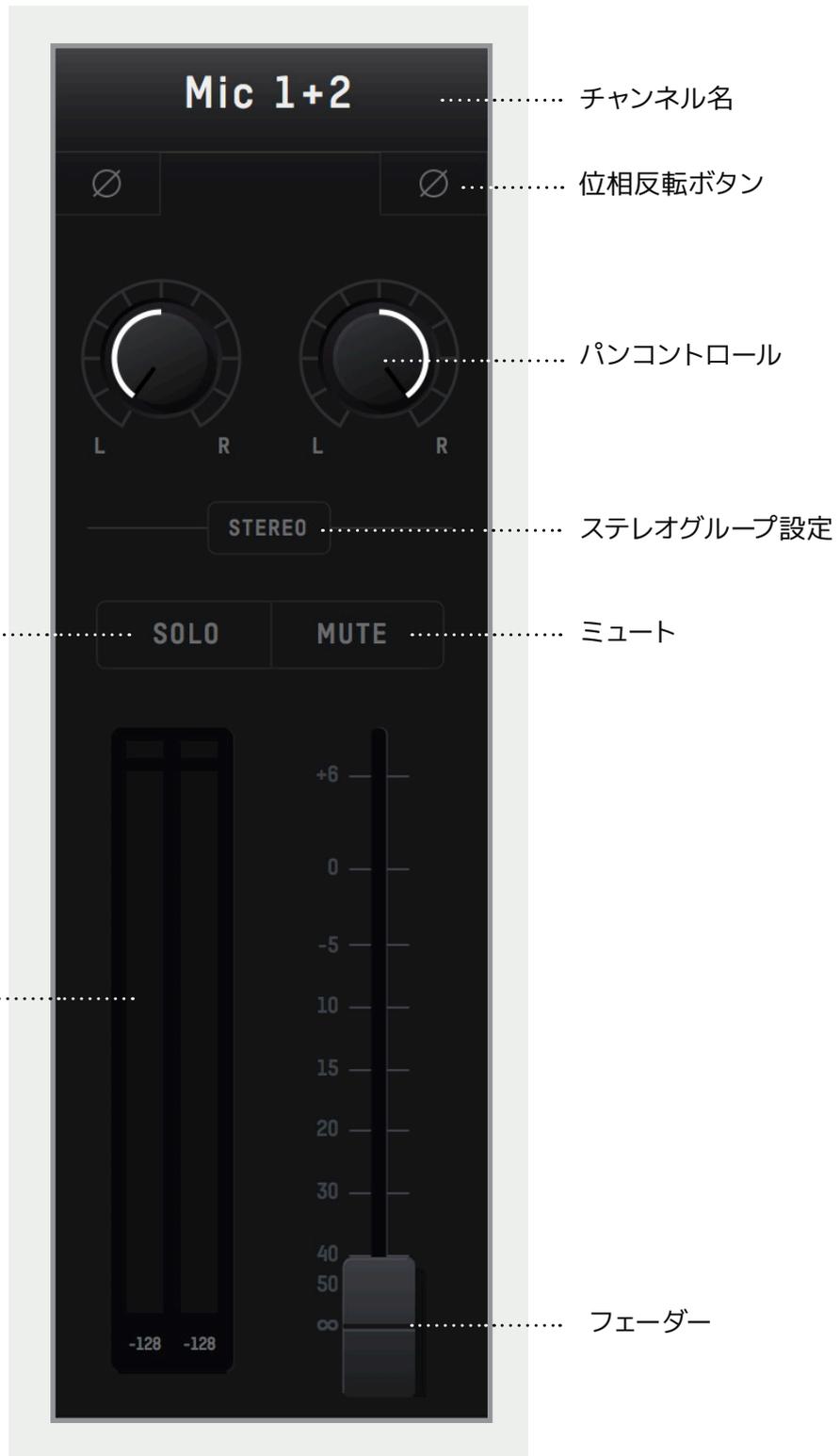
入力の本数は、ADATまたはS/PDIF、そのサンプルレートによって変化します。

DAWリターン

DAW から出力される、4 組 (8 チャンネル) のバーチャルミックスです。iD44は8チャンネルのリターン設定が可能ですから、Cueミックスや外部機器へのセンドに使用できます。

これらのミックスは、DSPミキサー上、cue ミックスまたはDAコンバーターを通過した信号として出力端子からモニターすることができます。

これらのミックスはモニターのみをコントロールし、DAWなどソフトウェアの音量設定には影響しませんのでご注意ください。



チャンネル機能

チャンネル名

大型コンソールにトラック名をテーピングするように、各チャンネルに名前を付けることができます。

位相反転ボタン

ステレオ音声の片チャンネルの位相（左チャンネル）を反転させます。この機能はF（ファンクション）スイッチに割り当てることができます。

パンコントロール

メインミックスや Cueミックスに送られる信号のパン（左右の定位バランス）を調整できます。

ステレオグループ設定

両隣のチャンネルをステレオリンクして1つのフェーダーでコントロールできます。パンは自動的にL&Rに定位します。

ソロ

SOLOボタンが選択されたチャンネル以外は全てミュートされます。複数チャンネルで同時にSOLO機能を使うこともできます。

ミュート

選択されたチャンネルがミュートされます。

フェーダー

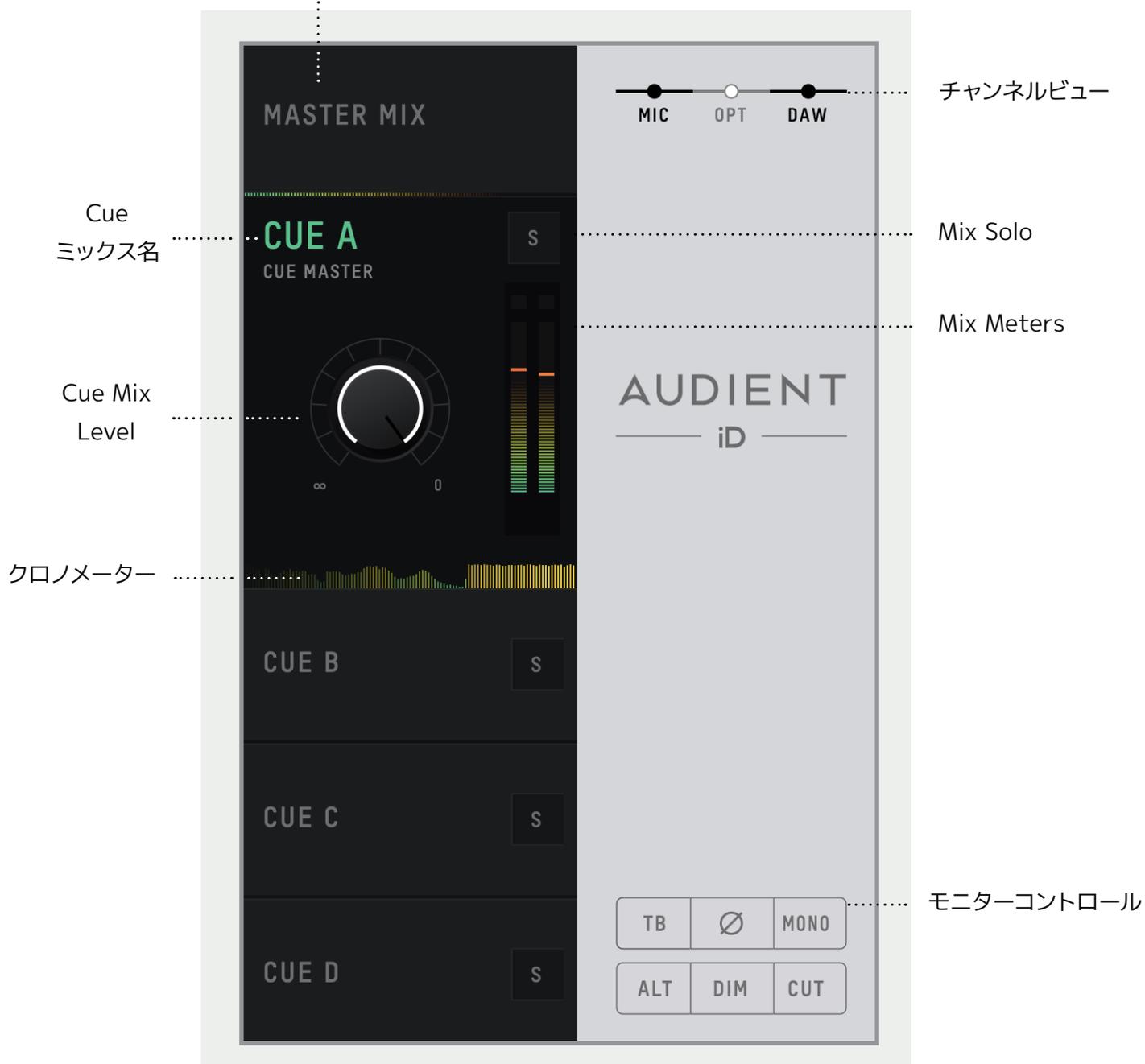
ミックスへ送る信号量を調整します。
可変範囲：-∞～+6dB

メーター

信号レベルをdBFS表示します。ピークホールド機能により、一度信号がピーク（0dBFS）に達すると、ピーク表示が点灯し続けます。また、Alt+クリックで全てのトラックのピーク表示を一度にリセット可能です。

マスターセクションの機能

ミックスセレクション



チャンネルの機能

ミックスセレクション

ミックスを選択すると、そのミックス内容が変更できます。ミックス中にある他のパラメーターも確認できます。

Cueミックス名

ダブルクリックすると、Cueミックス名が変更できます。例えば、バンドメンバー毎にCueミックスを作成した場合、「ギタリスト」「ドラマー」など個別に名前を付けることが可能です。

Mix Solo (ミックス・ソロ)

SOLO選択されたミックス以外が全てミュートされます。複数の同時SOLO設定も可能です。

Cue Mix Level (キュー・ミックス・レベル)

出力に送られるCueミックスのレベルをコントロールします。

Mix Meters (ミックス・マスター)

選択されたMixのレベルを表示します。

Chronometer (クロノメーター)

数秒前までの信号レベルを表示します。特定のミックスで発生したピークの検知や、レベルの調整に便利です。

Channel Views (チャンネルビュー)

ミキサーに表示される3チャンネルタイプをボタンで切り替えられます。例：デジタル入出力を使用していない場合は、OPTICALをオフにすると「デジタル入力」がミキサー上から消えます。

モニターコントロール

これら6つのボタンで6種類のモニター機能が選択できます。：

- **トークバック**

トークバックのオン/オフボタンです。

色々なトークバック設定は、このマニュアルの‘System Panel’ (システムパネル) セクションをご覧ください。

- **位相切替**

ステレオ信号の片サイドの位相を反転します。

モノボタンと併用すると、センター定位を排除してミックスの問題点を探し出すことができます。

Mono (モノ)

ステレオ出力をモノ信号にサミングします。ミックスのモノ再生の互換性が素早く確認できます。

ALT (オルタナティブ)

ALTモニタースピーカーに切り替わり、他のスピーカーで再生されるサウンドが確認できます。

System Panel (システムパネル) で、ALTスイッチの切り替え先が指定できます。

Dim (ディム)

先に設定した減衰出力信号レベルへ切り替えます。セッション中に音声を下げたい時に便利な機能です。

Cut (カット)

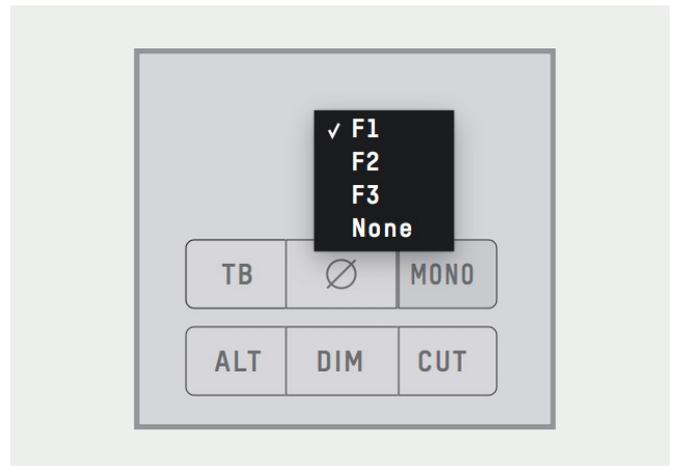
モニター信号をミュートします。

これらの全コントロールは、iD44のFキーまたはTalkback、Dim、Cutから操作できます。

Fキーのアサイン

iD Mixerアプリの様々な機能をFキーにアサインすることで素早く切り替えが実行できます。

Fキーへのモニターコントロールのアサインは、右クリックでFキーを選びます。



システムパネル機能

デジタル I/O
フォーマット

クロックソースの
選択

モノラル・モード

Dim レベル

Alt スピーカー
レベル

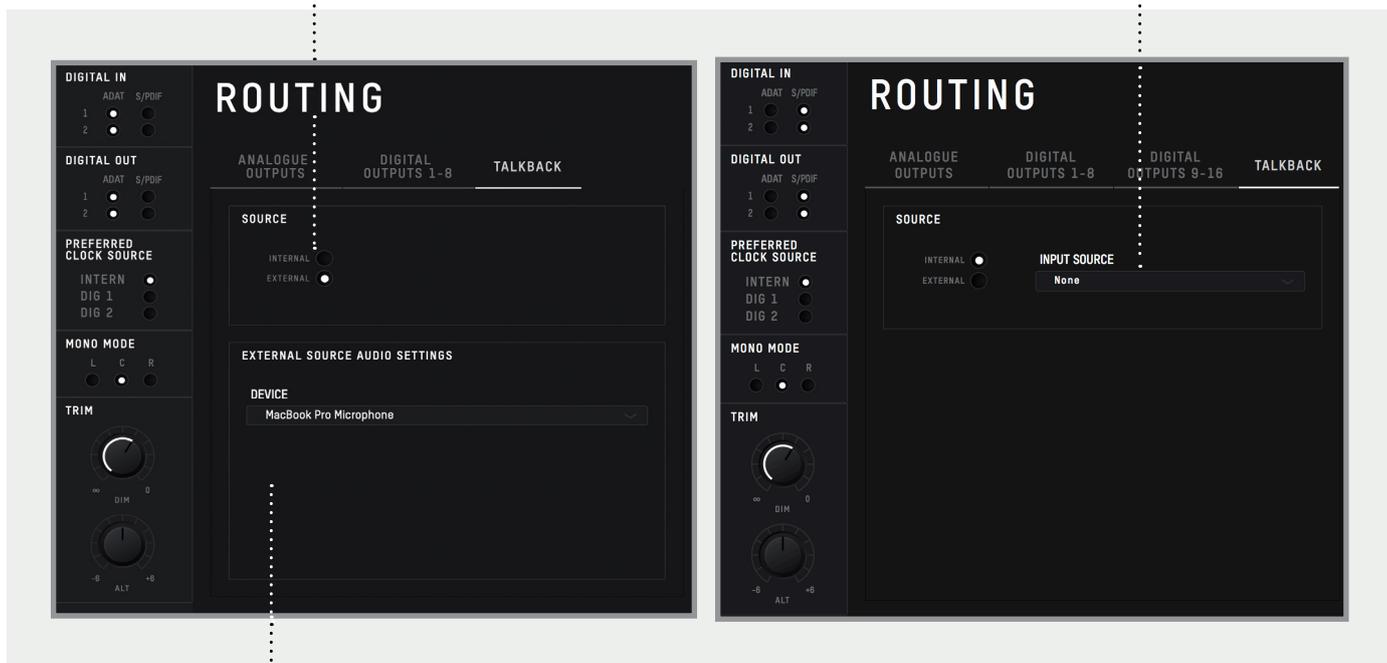


出力
ルーティング

ルーティング
マトリクス

トークバック
ソース

入力ソース



トークバック
デバイス

システムパネル機能

デジタルI/Oフォーマット

各オプティカル入出力をADATまたはS/PDIFいずれかのデジタルフォーマットに選択できます。

クロックソースの選択

クロックのソースを「内部クロック (INTERNAL)」または「外部のクロック (OPTICAL, 2入力から1つを選択する。)」から選択します。

詳しい内容はこのマニュアルのクロックセクションで説明しています。

外部クロックを使用している場合は、クロックインのステータスをインジケータで表示します。

- **赤色**: クロック信号が認識できない。
- **オレンジ**: クロック信号を認識しているが、サンプルレートが一致していない。
- **緑色**: サンプルレートが一致し、正常な同期が確立されている。

外部クロックが正しく動作するには、この表示がグリーン点灯していることが必要です。グリーン表示でない場合は、iD44は正しいクロックを受けるまでデフォルトの内部クロックに切り替わります。

モノモード

このモードではモノ信号がL、R、または両チャンネルのスピーカーに送られます。

Dim レベル

iD44のDimボタンが押されたときの減衰レベルを設定します。

ALT Speaker Level

ALTで切り替えられた時の出力レベルを設定します。異なるメーカーのスピーカー間のレベル差の調整を行います。

出カルーティング

アナログ出力、デジタル出力1、デジタル出力2またはトークバック・チャンネルルーティングするマトリクスを開きます。

ルーティング・マトリクス

iD44の出力へ各オーディオソースを選択できるオプション:

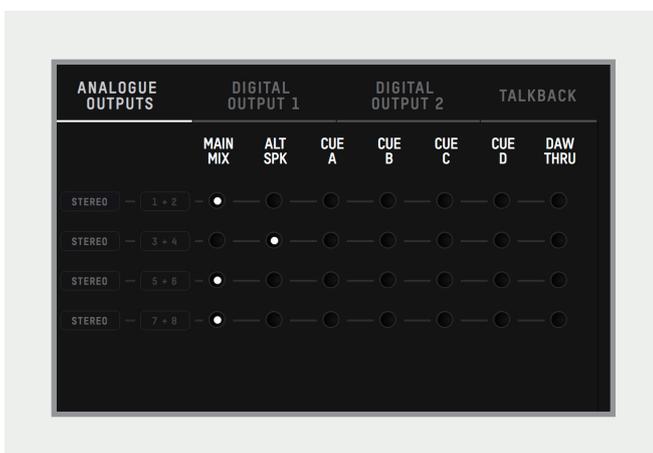
- **Main Mix (メインミックス)** - iD Mixerソフトウェアのマスターミックスから信号を出力します。これがスタンダードなプレイバック設定です。
- **ALT (オルタナティブ)** - ALTスピーカーが選択されている時だけマスターミックスから信号を出力します。
- **Cue A, B, C, D** - iD Mixerソフトウェアミキサーで作った4つのcueミックスから出力できます。ハードウェアのボリュームコントロールはミックスには動作しません。Cueミックスレベルの調整はMain Mixer Windowで行います。
- **DAW THRU** - DAWからの信号をそのまま出力へルーティングできるオプションです。例えば、アナログ出力1+2をDAW THRUへルーティングすると、あなたのDAW→出力1+2はダイレクトにアナログ出力へ送られます。

このオプションは、DAWからの出力からいくつかのソースをデジタル出力へダイレクトに送ることができますし、オプティカル出力経由で外部機器へ信号を送ることも可能です。

例: デジタル出力1+2→DAWTHRUにすると、指定したDAWチャンネルのソースをダイレクトに送り再生できます。(出力9+10、1-8はアナログ出力です。) デジタル出力3+4は出力11+12になります。

DAW THRU使用の注意点: この設定はボリュームコントロールをバイパスし、フルスケールの信号を出力へ送ります。スピーカー再生する際は、出力からインラインのアッテネート使用を推奨します。(スピーカー再生が大音量になり、モニタースピーカーを損傷する恐れがあります。)

DAW THRUはヘッドフォン出力へのアサインはできません。



トークバック・ソース

トークバック・ソースは、iD44内の信号の1つ、またはホストコンピューターに接続されている機器（内蔵マイク、USBマイク）をトークバック入力へソースとしてフィードできます。

1つの入力をトークバック・チャンネルに選ぶと、iD Mixerソフトウェア・ミキサーのチャンネル・ストリップは、センターにTBボタンがあるトークバック・チャンネルに変わります。

外部機器を使う場合は、トークバック信号はチャンネルDAW 10に現れます。フェーダーはMain Mixではなく、Cue Mixのチャンネルに現れます。

トークバック・デバイス

外部機器が選択されると、図のように使用デバイスが選べます。



ミキサープリセット設定の保存と読み込み

再度使いたいiDミキサー設定がある場合は、プリセットとして保存できます。保存した設定をリコールして、スピーディーに異なるセッションに対応できます。

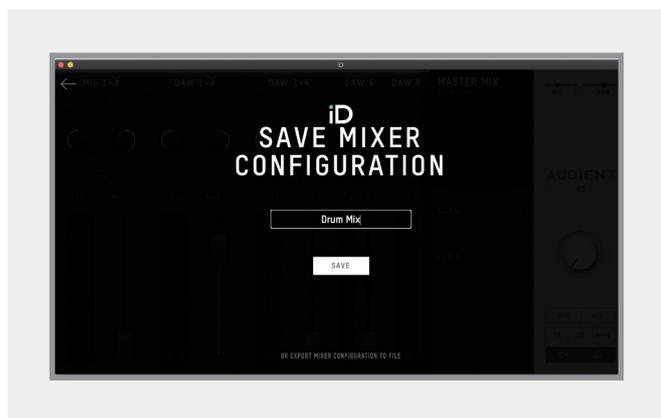
ミキサープリセットは、2つの方法でセーブとロードが行えます。:

- ファイルメニューからSaveまたはOpenを選びます。
- 以下のキーボード・ショートカットを使います。:

Save:	Mac -	Cmd + S
	Windows -	Ctrl + S
Load:	Mac -	Cmd + O
	Windows -	Ctrl + O

プリセットの保存

プリセットの保存はFile→Saveで行います。ミキサーウィンドウは図のように保存のダイアログが表示されます。



プリセット名を入力してsaveをクリックします。

他のコンピューターまたは他のiD44ユーザーへプリセットを送る場合は、DAWセッションファイルに保存します。その方法は、SaveスクリーンにあるExport Mixer Configurationをクリックします。

ミキサー設定をロードする

以前に保存したプリセットのロードは、File→Openでロードスクリーンを開きます。

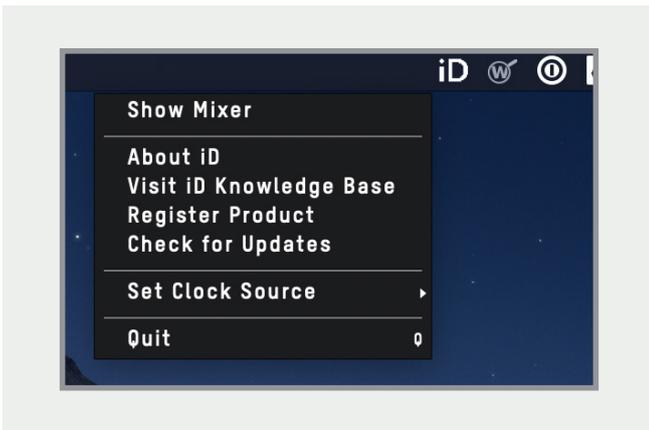


以前に保存したプリセットはリストに表示されます。ロードしたいプリセットを選び、Loadをクリックします。mixer configurationを開いてLoad From Fileを選んでファイルをロードすることもできます。

メニュー/タスクバーアイコン

MacOS

MacOSでは、図のようにiDアイコンがスクリーンの右上に表示されます。これをクリックしてiD44の色々な機能にアクセスできます。



Quit

iD Mixerアプリを完全に閉じます。

About iD

iD Mixerアプリの現バージョンを表示します。

Visit iD Knowledge Base

Audient Helpdeskのブラウザーが開き、ヘルプ事項やFAQが確認できます。(英語サイト)

Set Clock Source

内部&外部のクロックソースの切り替えが可能です。

Check for Updates

iDアプリがiD44のファームウェアAudient updateサーバーで確認します。

Windows

Windowsのシステムトレイには、MacOSメニューバーと同じオプションと、Winスペシャルオプションがあります。



Set Sample Rate

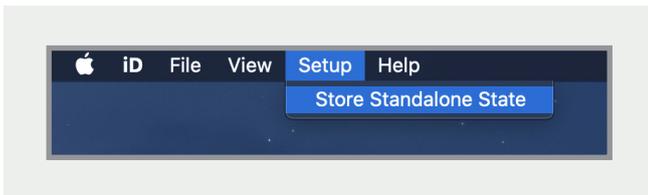
44.1、48、88.2、96kHzからiD44のサンプルレートをセットします。

Set ASIO Buffer Size

バッファサイズを16~8192サンプルの間で決定します。高いサイズ設定ほどコンピューターへの負荷が下がりますが、レイテンシーは増加します。

スタンドアローンの使用方法

iD44は、ホストコンピューターに接続しない状態でも使用可能です。このスタンドアローンの使用方法は、リモートでの複雑なトラッキングなどに最適です。



スタンドアローンモードの設定はiD Mixerソフトウェアミキサーで行います。

システムパネル (System panel) 中のdigital I/O, output routings, talkbackが本体に保存できます。

設定方法: コンピューターに接続し、システムパネル内のデジタル入出力、出カルーティング、トークバックの設定も反映されます。

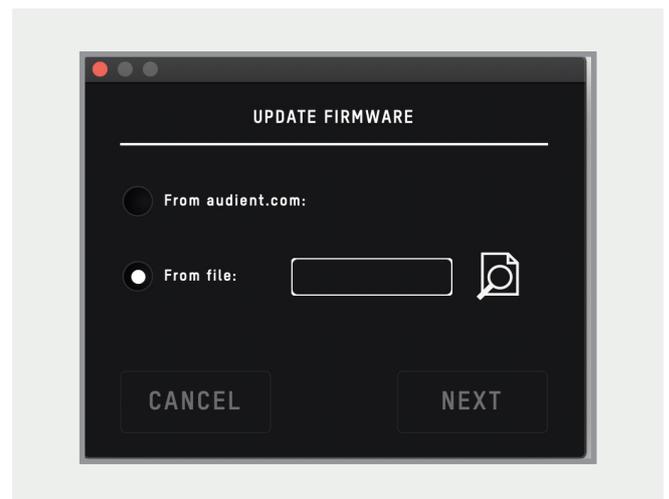
メニューの「Setup」「Store Standalone State」をクリックすると、その設定がiD44本体に保存されます。

ファームウェアのアップデート

機能の追加や改善、バグ修正のために、ファームウェアのアップデートを行う場合があります。定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることをお勧めします。

ホストコンピューターをインターネットに接続して、MacはMenuバー、Windowsはシステムトレイへ行き、Check for Updates (アップデートのチェック) を選びます。

iD Mixerアプリは自動的にaudient.comでアップデートをチェックします。新たなファームウェアがあれば、即座にインストールをお勧めします。



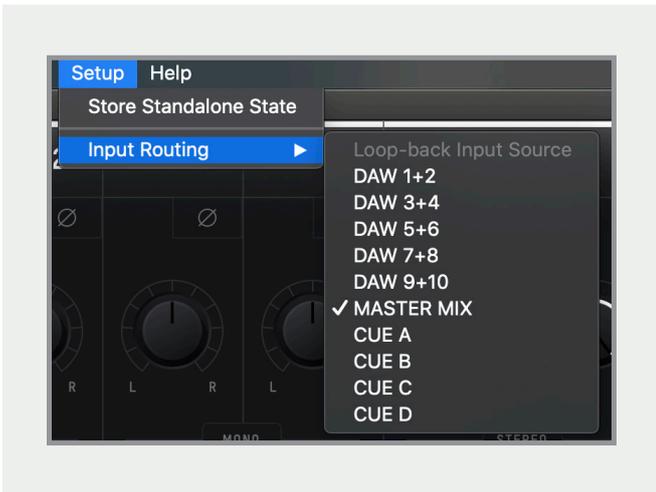
Nextをクリックすると、iD44経由のプレイバックを止めるリクエストが出ます。Updateをクリックすると、アップデートが開始されます。このプロセスは1分程度で完了します。その際は、接続されているモニタースピーカー等の電源を切ってください。アップデート中に本機は何度かリスタートされます。

オーディオ・ループバック

iD44のミキサーアプリのもう1つの特徴にループバック・オーディオがあります。マイクからの入力とコンピューターアプリのサウンドを同時に録音することができ、ビデオ・インタビューの録音やゲーム・ストリーム配信時、BGMを流しながら話すことが可能です。

iD ミキサーの“Setup”→“Input Routing”オプションを用いて、ループバックチャンネルへオーディオソースを送ります。それらの信号は、入力チャンネル21+22（ループバックチャンネル）に送られます。

On macOS :



選択可能なソースは以下の通りです。:

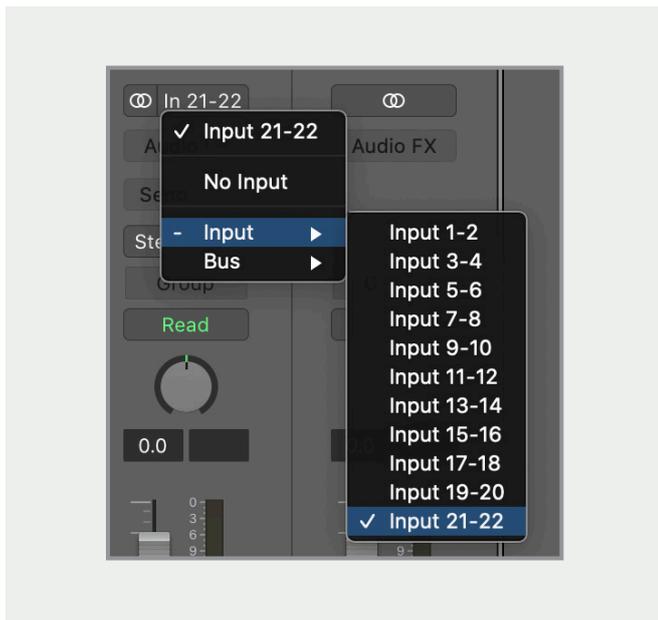
- **DAW 1+2** - オーディオソースをoutputs (出力) 1+2へ送る
- **DAW 3+4** - オーディオソースをoutputs (出力) 3+4へ送る
- **DAW 5+6** - オーディオソースをoutputs (出力) 5+6へ送る
- **DAW 7+8** - オーディオソースをoutputs (出力) 7+8へ送る
- **DAW 9+10** - オーディオソースをoutputs (出力) 9+10へ送る
- **Master Mix** - Main Mix パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue A** - CUE A パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue B** - CUE B パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue C** - CUE C パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue D** - CUE D パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ

On Windows :



ループバック・ミキサーの使用

録音やストリーミングするためのループバック・ミックスは、まずオーディオソフトの入力チャンネルからループバック・チャンネルを選びます。使用されているソフトにもよりますが、それらはループバック1+2または入力21-22です。例えば、Logic Pro Xでは、図のように入力21-22がループバック入力に使用されます。



他のソフトでも同じようなプロセスで選択されるはずですが、しかし、セッティング方法に自信がない場合は、ソフトウェアのユーザーマニュアルをご覧ください。

Windowsでは、システム・セッティングでオーディオ・デバイスをAnalogue 1+2→Loop-back 1+2に変更する必要があります。

注：一部のストリーミング・アプリは入力チャンネルを変更できず、channel 1+2にデフォルト設定されています。すべてのアプリがchannel 21+22対応ではありません。その設定ができないアプリではループバック機能は使えません。

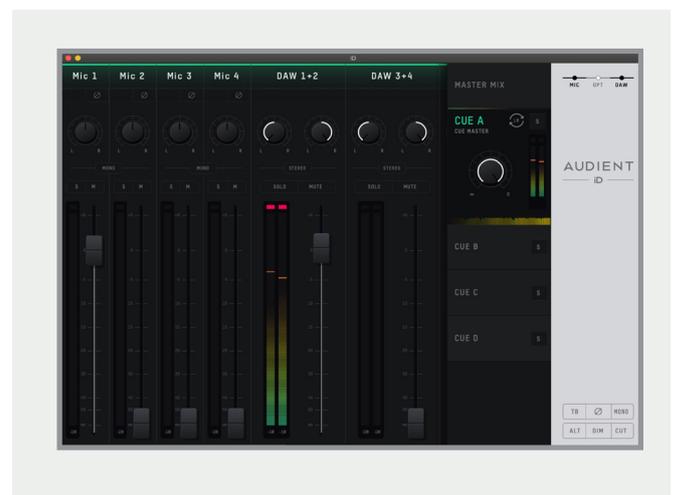
レコーディング/ストリーミングのループバック・ソース

レコーディング/ストリーミングソフトでオーディオ・ソースをループバック入力を選択したら、iD Mixerでループバックをセットアップします。

まず、第一ステップはループバック・ストリームで使うソースを決めます。

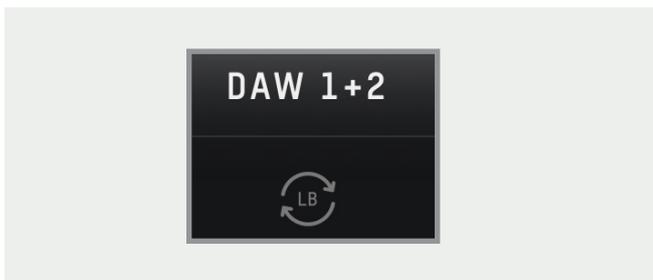
コンピューターからの信号とマイク/インストをシングル・ミックスにまとめ、メインミックスか、Cueミックスへ送ります。これが各チャンネルのフェーダーが操作できるため、もっとも良い方法でしょう。

下図のように、Mic 1&DAW 1+2がCUE Aミックスに送られ、ループバック・ソースに使われています。このセットアップをレコーディングすると、Micチャンネルとコンピューター・プレイバックがステレオ・チャンネルとして聴こえます。



もし、マイク信号なしで、コンピューターからのオーディオのみを聴きたい時は、DAWチャンネルからオーディオソースを選びます。

チャンネルまたはミックスをループバックソースとして選ぶ場合は、ループバックがどこから送られてきているのか確認できるように、小さなループバックアイコンがchannel/mixの上に現れます。



出力チャンネルの調整

ループバックミックスをセットアップする際、メインモニターミックス (Main Monitor Mix、通常=DAW 1+2) と一緒にならないように、DAW 3+4、DAW 5+6、DAW 7+8、DAW 9+10へ出力をアサインします。

ほとんどのDAWソフトでは、新たな出力センドや出力チャンネルが作れますから、ユーザーマニュアル等で詳しい方法を確認してください。

Media PlayersやVideo callsなどのアプリでは、出力チャンネルを調整するオプションはありませんから、OS側のセッティングを変更する必要があります。

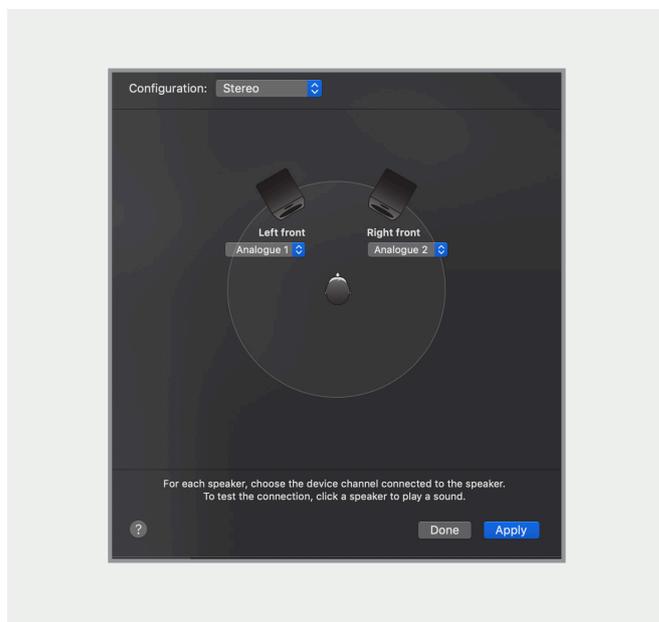
macOSの場合：

Finderを開き、**アプリケーション** → **ユーティリティ** → **Audio MIDI設定**とアクセスします。

オーディオ装置内のデバイスリストからiD44を選びます。

出力タブを選び、“スピーカーを構成”をクリックします。ここで、iD44のL & R出力が決められます。

出力チャンネルとDAW出力との関係はChannels 3+4 = DAW 3+4、Channels 5+6 = DAW 5+6... etcです。



Windowsの場合：

スタートメニュー (Start menu) を開いて、セッティング (Settings) を選択します。

System → **Sound** → **Sound Control Panel**の順に進み、“Output Device”ドロップダウンメニューから使いたいチャンネルを選びます。

MacOSと同じように、出力チャンネルとDAW出力との関係はChannels 3+4 = DAW 3+4、Channels 5+6 = DAW 5+6...etcです。

Keyboard Shortcuts

キーボードショートカット

以下がiDMixerアプリのショートカットテーブルです。

Location	Mac	Windows	Description
Faders	Alt + Click	Alt + Click	フェーダーをユニティゲインへリセット (0dB)
Pans	Alt + Click	Alt + Click	パンポットをセンターへリセット
Solos	Cmd + Click	Ctrl + Click	全てのソロチャンネルをクリア ソロ設定されていないチャンネルをクリックすると、全てのソロが無効になります。
Meters	Alt + Click	Alt + Click	ピークホールド表示をクリア
System Panel	Cmd + S	Ctrl + S	ミキサー設定をセーブ
	Cmd + O	Ctrl + O	ミキサー設定をロード
View Modes	Cmd + 1	Ctrl + 1	Mic/Line入力を表示
	Cmd + 2	Ctrl + 2	Optical (Digital) 入力を表示
	Cmd + 3	Ctrl + 3	DAWミックス入力を表示
	Cmd + 4	Ctrl + 4	System/パネルを表示

最新アプリをチェックしてください。告知なしにショートカットが追加される場合があります。

audient.com/products/iD44

DAW セットアップ

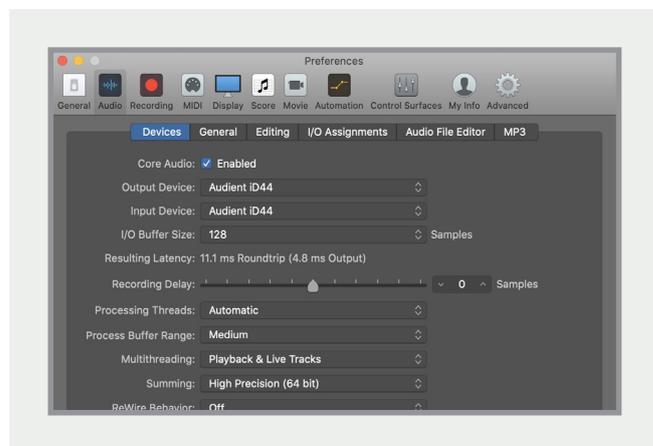


Pro Tools セットアップ

Pro Tools と使用する場合

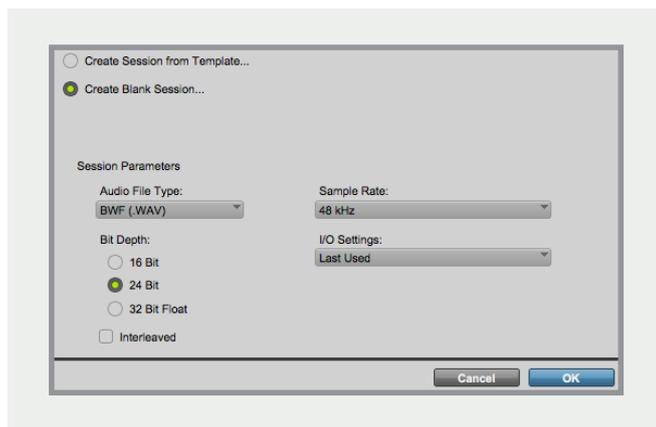
iD44インストールが完了したら、Pro Toolsを起動してサンプルレート設定を確認します。外部クロックを使用する場合、両方を同サンプルレートに設定してください。

Windows 版をご使用の場合は、プロジェクトを開く前に、必ず iDアプリからレイテンシーとバッファサイズの設定を行って下さい。これらの変更後に Pro Toolsのリスタートが必要になります。



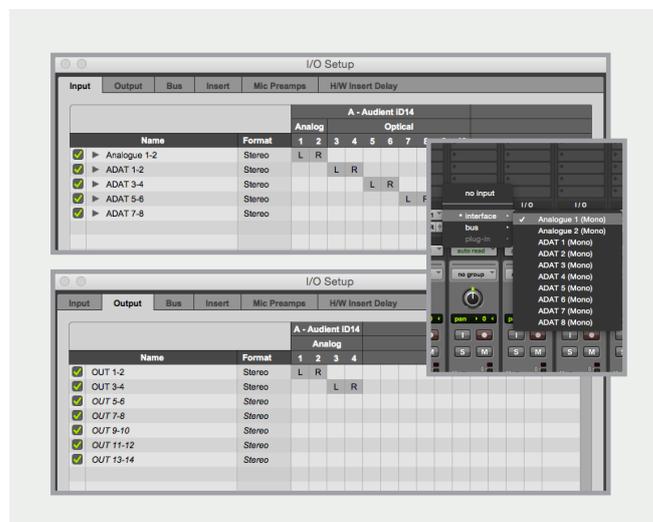
I/O セットアップ

Setup→I/Oへ進みます。設定画面で入力と出力の設定を行います。iD44の20入力/24出力が正しくルーティングされているか確認してください。iDミキサーの中では、アナログ出力1-8がDAWのプレイバックチャンネルになります。iDミキサー経由又はPro Toolsから出力へ（ハードワイヤー）ルーティングします。



プレイバック・エンジン

[設定→プレイバックエンジン]でプレイバック・エンジンの設定に進みます。iD44がコンピューターのプレイバック・デバイスに設定されていることを確認して下さい。



※ Pro Toolsの設定に関する詳細は、Avid の取扱説明書をご覧ください。

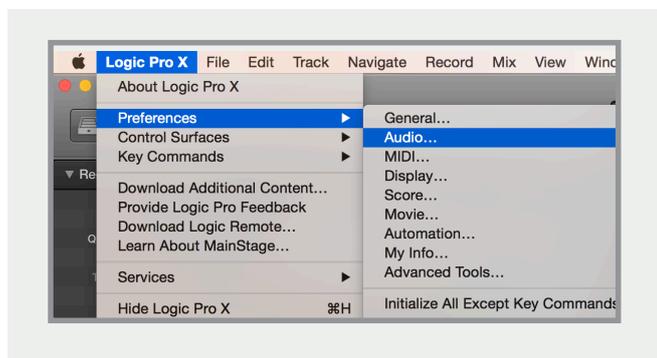


Logic Pro セットアップ

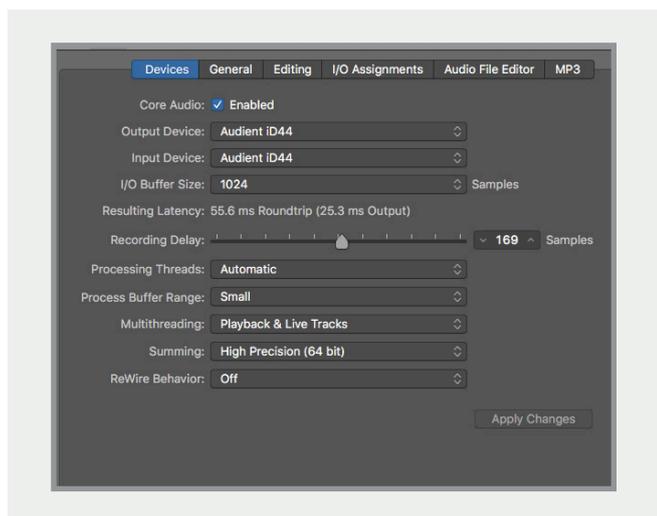
Logic Proと使用する場合

iD44インストールが完了したら、Logic Proを起動します。次の手順でセットアップを進めて下さい。

Logic Pro → Preferences → Audio



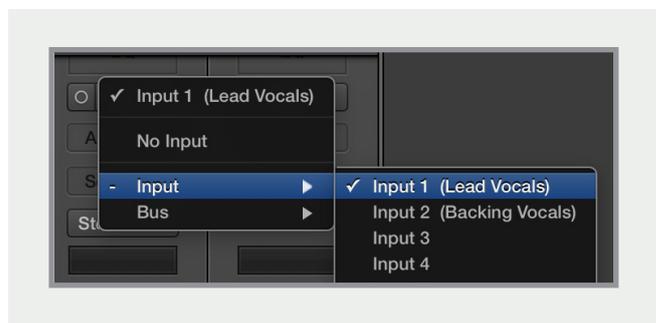
まず、iD44をオーディオデバイスとして選択し、バッファサイズを必ず決定して下さい。もし、ポップやクリックノイズ、歪みが出てプレイバックが不安定な場合、また“overload”のエラー表示が出てCPUへの負荷が大きい時は、バッファサイズを上げて下さい。



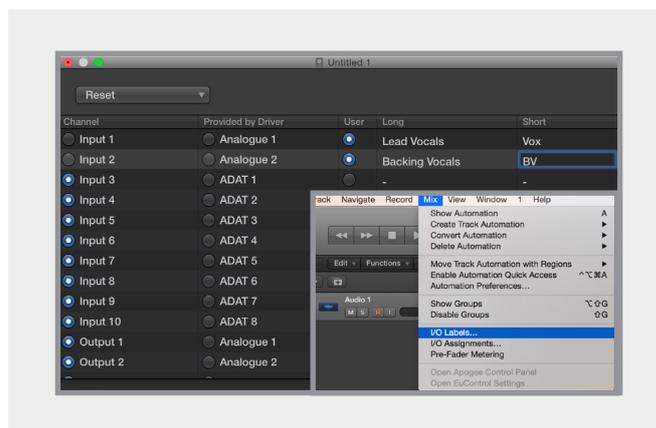
レコーディング中にiDミキサーで入力信号をモニターしている場合は、レイテンシーの短い同じソースのDSP信号が再生されて、ディレイがかかったダブル再生が起きるため、Logicソフトのインプットモニターを使用しないでください。

入出力をアサインする

iD44の全入出力(20-inputs&24-outputs)がLogicのルーティングに現れます。それらの入出力はI/O label機能で全てお好みの命名が可能です。便利な機能ですから、ぜひお使いください。



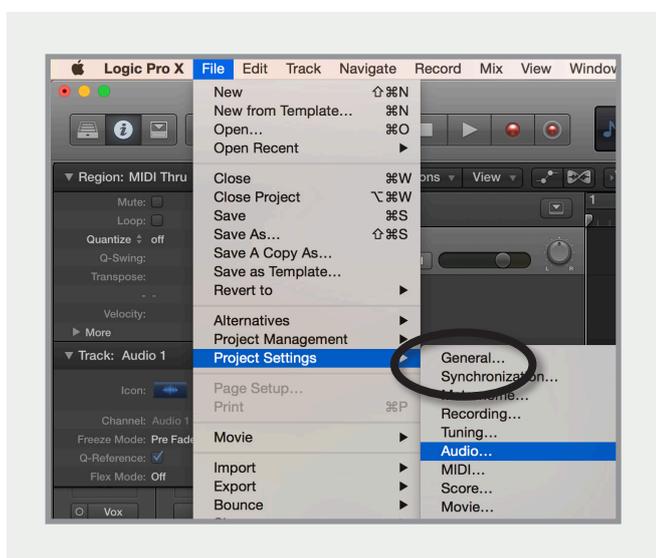
Mix → I/O Labels



オペレーション

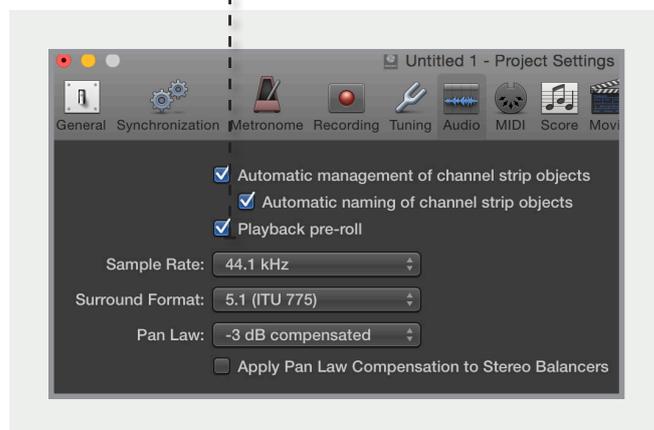
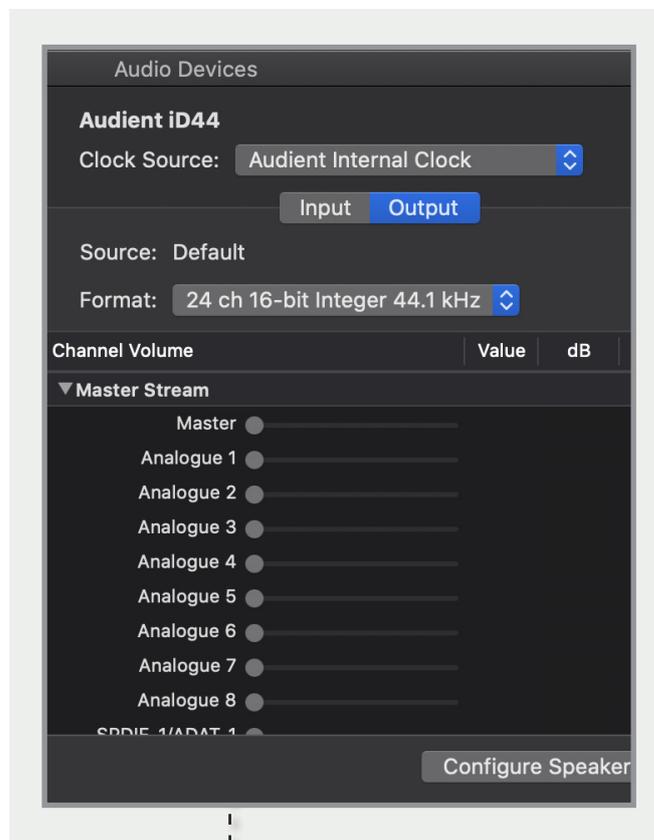
外部機器 (ADAT、S/PDIFから) をクロックソースとして使用する場合は、Logic ProとiD44 の (レコーディング&プレイバック) サンプルレートを同一値に設定します。

File → Project Settings → Audio



iD44 の内部クロック (INTERNAL) をマスターにする場合は、iD44のクロック値が Logic Pro のサンプルレート設定に追従して自動変更されます。クロック変更後、同期するために短い無動作期間がありますが、これは正常です。これらの設定 (Audio MIDIセットアップ) は、下記の画面で設定することができます。

Macintosh HD → アプリケーション → ユーティリティ



※他の設定に関しては、Logic Pro の取扱説明書をご覧ください。

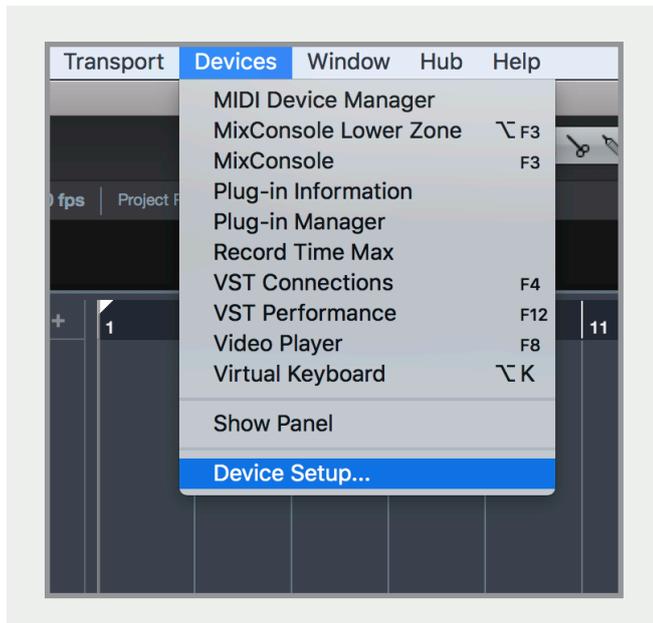


Cubase/Nuendo セットアップ

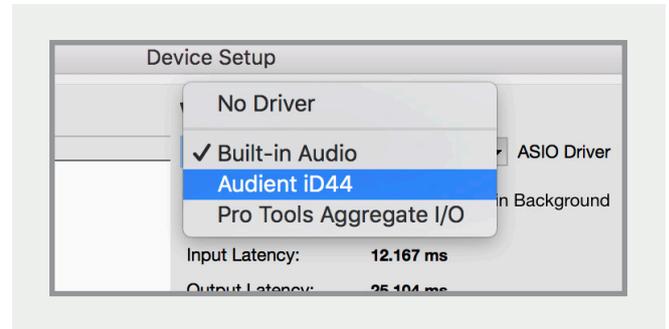
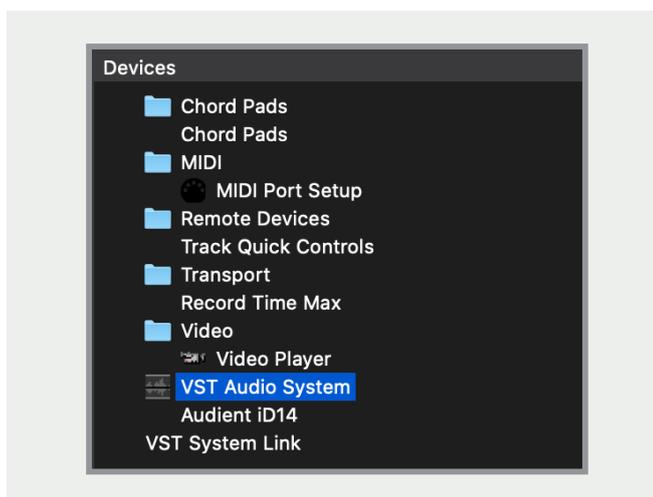
Cubase/Nuendoと使用する場合

iD44のインストールが完了したら、DevicesメニューからCubaseまたはNuendoを起動します。次の手順でセットアップを進めて下さい。:

Devices → Device Setup...



図のようにオプションリストからVST Audio Systemを選びます。

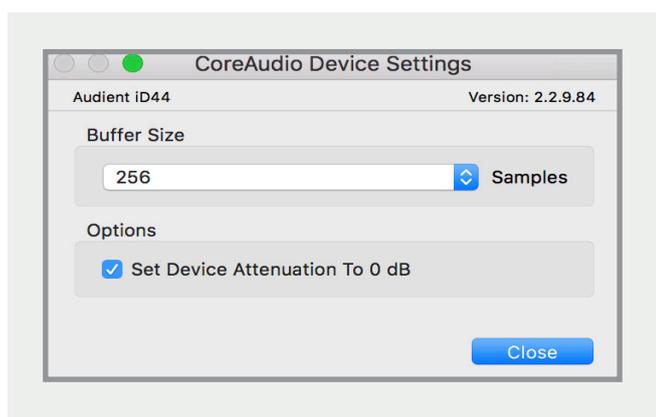


Cubase/Nuendoを使用する際に、iD44がデバイスドライバーに選ばれていることを確認してください。OKの確認が出たら'switch'を選択してください。

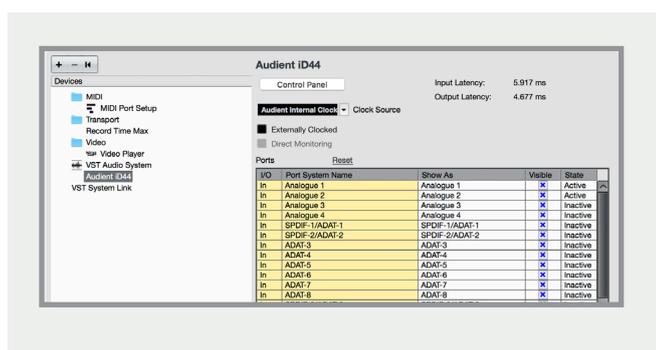


クロックソース、I/Oポートなど、主なインフォメーションが見られます。ADAT or S/PDIF経由の外部クロックを使用する際は、必ず設定を確認してください。

バッファサイズの設定は、VSTデバイスの画面で行います。iD44のDSPミキサーを入力用のモニタリングに使用すると、コンピューターのCPU負荷を抑えることができます。また、I/Oポートの名称は変更できません。

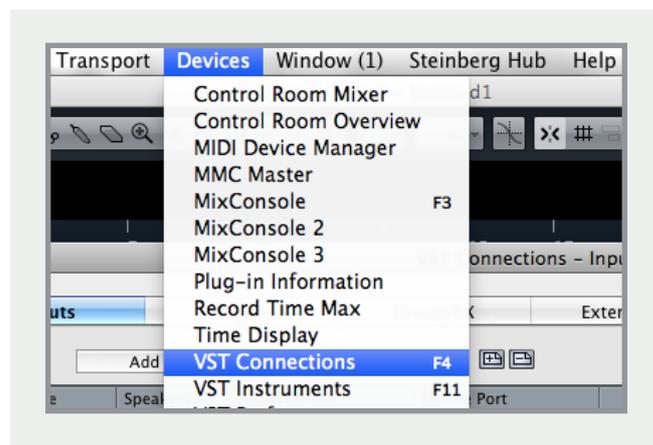


デバイスパネルでI/Oの名前が変更できます。「メインモニター」「ヘッドフォン」など分かりやすい名前に変更すると便利でしょう。ここで変更された名称はDAWのトラック画面上にも反映されます。

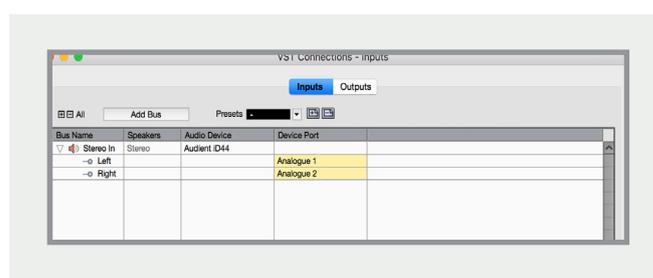


VST deviceを閉じてVST connectionsへ移動します。:

Devices → VST Connections (F4)



Cubase/Nuendo全てのバスやポートがここで確認できます。また、新しいバスは必要なI/Oにアサインできます。



バスはモノラル/ステレオどちらでも設定でき、VSTコントロールルームセクションの操作も可能です。

※ 他の設定に関しては、Steinbergの取扱説明書をご覧ください。



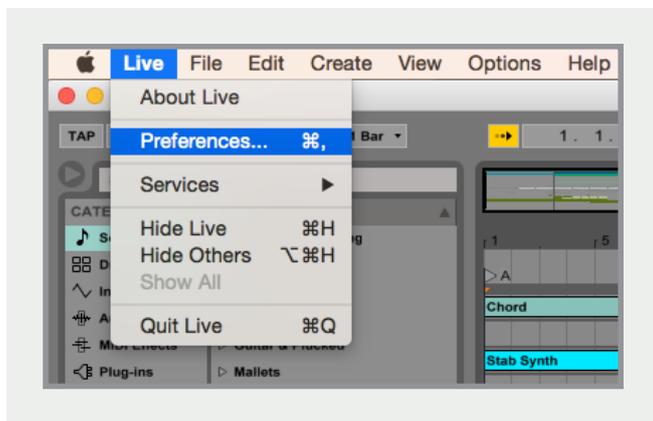
Ableton Live セットアップ

Ableton Liveと使用する場合

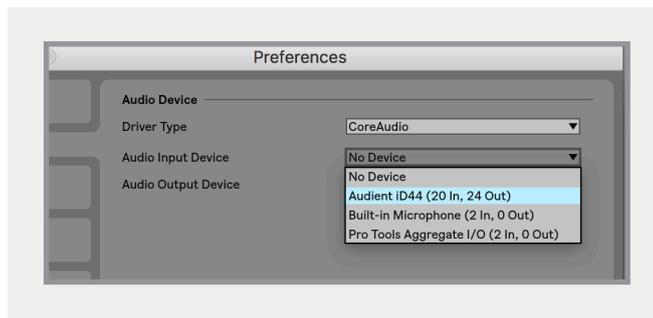
iD44のインストールが完了したら、DevicesメニューからAbleton Liveを起動します。

次の手順でセットアップを進めて下さい。:

Live → Preferences → Audio



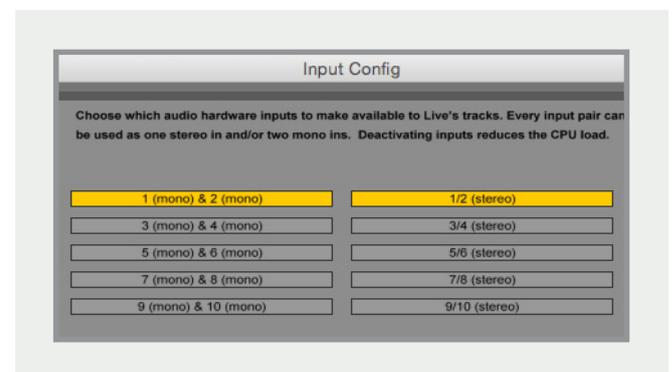
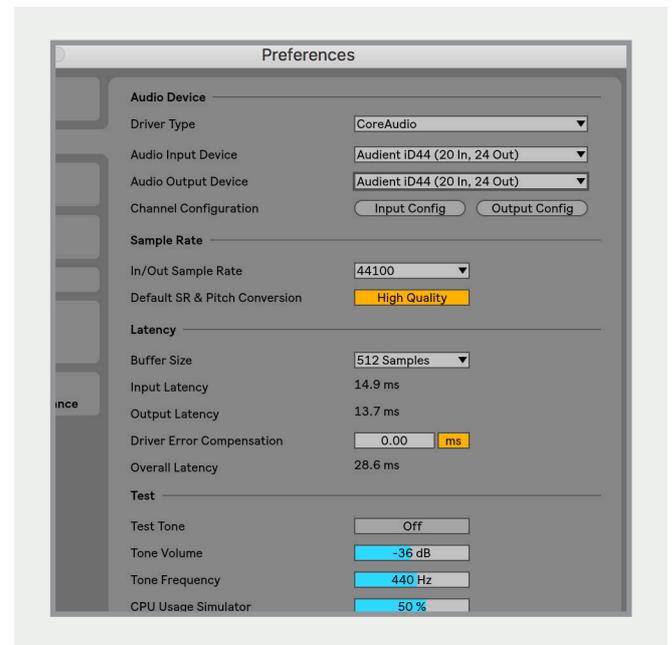
iD44がプレイバックデバイスにアサインされていることを確認してください。



オーディオI/O設定の詳細な内容は、Ableton Liveのユーザーマニュアルをご覧ください。

Live Audio Preferenceパネルで適正なバッファサイズを決定します。iDミキサーでレコーディング入力ソースをモニターしている場合は、そのサイズは高めに設定できます。図のように、iD44が20-in&24-outデバイスに選択されていることを確認しましょう。

必要であれば、config tabsからアクティブI/Oチャンネル数を限定することもできます。これはCPU負荷を下げるのに素晴らしい特徴です。



トラブルシューティング & FAQ

“本機に電源が入らない。”

12V電源アダプターの接続を確認してください。

“DAWプレイバックのサウンドにポップノイズやクリックノイズが入る。”

コンピューターの性能に対して、バッファサイズが低く設定されている可能性があります。

これは、多くのプラグインやバーチャル楽器がロードされているような、大きなプロジェクトが原因で起きます。バッファサイズを大きく設定してみましょう。

“コンピューターに接続しても音が出ない。”

- USBケーブルが正しく接続を確認してください。
- iD44が出力デバイスとして設定されているか確認してください。

Macの場合：

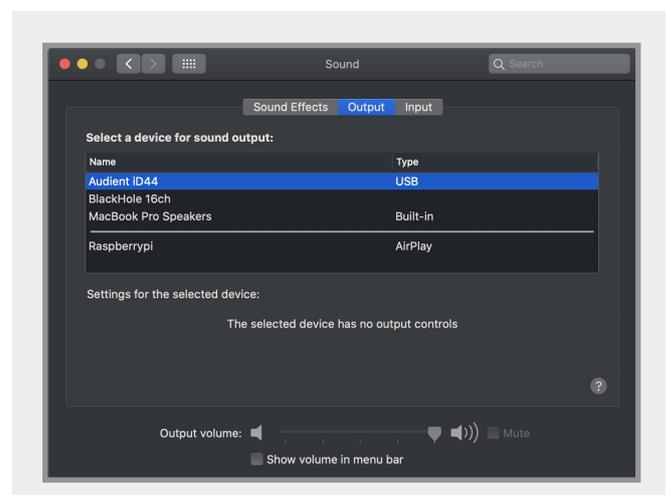
システム環境設定 → サウンド → 出力のタブ → Audient iD44 (OSX)

Windowsの場合：

スタートメニュー → コントロールパネル → オーディオ・デバイス → Audient iD44 (Windows)

「iD Mixer」アプリを立ち上げ、コンピューターのiD44の認識を確認してください。

iD44の動作が確認されたら、iDアプリを終了しても動作は継続されます。ソフトウェア・ミキサーでDAWビューボタンを押し、DAW 1+2のフェーダーレベルを上げます。



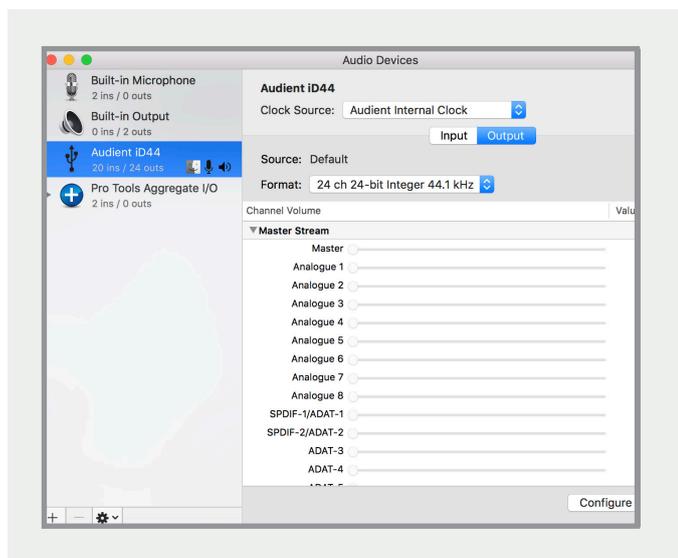
“外部機器（ADATまたはS/PDIF）とクロック同期していない。”

外部機器とクロック同期していない場合はStatus LEDがレッドまたはオレンジに点灯します。Status LEDがレッドの場合はクロック信号を受けておらず、オレンジの場合は受けていてもサンプルレートが異なる状態を表しています。

OSXでのサンプルレートの変更はAudio MIDIセットアップへ行き変更します。:

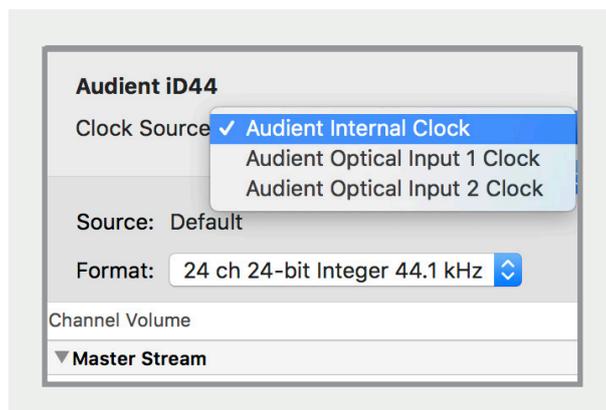
Macintosh HD → Applications → Utilities → Audio MIDI Setup

図のようにiD44がオーディオデバイスに選ばれていることを確認しましょう。(Window Menu → Show Audio Window).



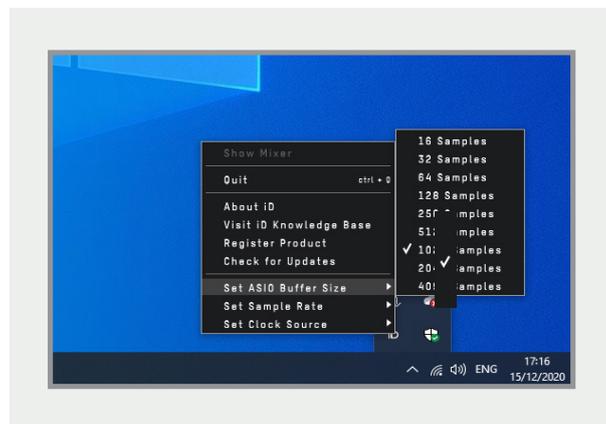
クロックソース(インターナルクロック、ADATまたはS/PDIF外部クロック)も正しく選ばれていることも確認してください。

サンプルレートはFormatドロップダウンメニューに表示されます。



Windowsをお使いの場合は、システムトレイのiDアイコンへ行き右クリックすると、サンプルレートなどの設定が開けます。iDアプリのセットアップタブでもこれらの変更が可能です。

サンプルレートの変更は、外部ADATデバイスやセッションとのマッチが必要です。



FAQs

バグ修正などの情報に関してはサポートページをご覧ください。

日本語ページ:allaccess.co.jp/audient/id44mk2/

英語ページ:www.audient.com/support

“iDミキサーの設定をデフォルトに戻したい。”

Mac の場合:

ユーザー → ライブラリ → Application Support →
Audient → iD → state.xml

Windows の場合:

C: → ユーザー → (ユーザー名) → AppData →
Roaming → Audient → iD → state.xml

※ フォルダー (プリセットが保存されています。) は
消去しないでください。

※ Windowsで表示されない場合、アクセス権や隠
しファイルの設定をご確認してください。

“ファームウェアが最新のバージョンか知りたい。”

iDミキサーのアップデートは[audient.com/id44/
downloads](http://audient.com/id44/downloads)へ行き、最新ドライバーをダウンロード
&インストールしてください。

iDミキサーアプリからでもファームウェアのリリース
は確認できます。

このマニュアルの前のセクションをご覧ください。

スペシフィケーション

マイクプリアンプ:

(ADCシグナルパスを含む)

マイクゲインレンジ:	0 to 60dB
ラインゲインレンジ:	-10 to 50dB
ファンタム電源:	48v +/-4v @ 10mA/Channel
Mic EIN (等価入力雑音):	-126.0dBu
CMRR (同相信号除去比):	>80dB @ 1kHz
最大入力レベル:	+18dBu (+28dBu w/pad)
入力インピーダンス (Mic):	3k Ω Balanced
入力インピーダンス (Line):	10k Ω Balanced
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 65kHz
クロストーク:	<-90 dBu @ 1kHz & 10kHz <0.003% (-96dBu)
SNR:	96dB
XLR:	Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)
1/4" Jack:	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

D.I / インストゥルメント入力:

(Channel 1)

D.I GAIN:	0 to 60dB
最大入力レベル:	+10 Bu
入力インピーダンス:	1M Ω アンバランス
周波数特性:	\pm 0.5 dB 10Hz to 50kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.3%
SNR:	95dB (A-weighted)
1/4"ジャック:	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

アナログ to デジタルコンバーター

(ADC 1 & 2): (AES-17 に基づきInsert Returnにて測定)

最大入力レベル:	+18dBu (0 dBFS最大入力)
デジタルリファレンスレベル:	0 dBFS = +18dBu
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-115dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ -1dBFS0dBu (1kHz):	<0.0003% (-112dB)
ダイナミックレンジ:	120dB A-weighted
1/4" TRS Jack:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

デジタル to アナログコンバーター

(DAC 1 & 2): (AES-17 に基づきLine Outpur出力にて測定)

最大入力レベル:	+18dBu (0 dBFS最大入力)
デジタルリファレンスレベル:	0 dBFS = +18dBu
出力インピーダンス:	<100 Ω
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-118dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ -1dBFS0dBu (1kHz):	<0.0006%
ダイナミックレンジ:	121dB A-weighted
1/4" TRS Jack:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

ヘッドフォン出力

(AES-17 に基づきPHONES出力にて測定)

最大出力レベル:	+14dBu (0 dBFSデジタル最大レベル)
デジタルリファレンスレベル:	0 dBFS = +14dBu
出力インピーダンス:	<50 Ω unbalanced
周波数特性:	\pm 0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	<-110dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.0008% (-103dB)
ダイナミックレンジ:	124dB A-weighted

最大入力レベル (30 Ω):	+7.5dBu 0.003%
	THD+N Power : 225mW
最大入力レベル (60 Ω):	10.2dBu 0.002%
	THD+N Power : 210mW
最大入力レベル (600 Ω):	14.2dBu 0.00057%
	THD+N Power : 54mW

1/4"ジャック:	TIP (Left), RING(Right) & SLEEVE (Shield)
-----------	--

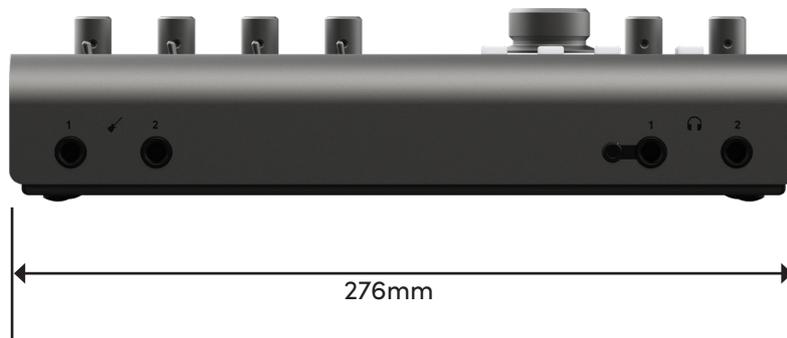
USB 2.0 ハイスピード

入力チャンネル:	20 (4 アナログ, 16 デジタル)
出力チャンネル:	24 (8 アナログ, 16 デジタル)
コネクタ:	USB Type-C
同梱ケーブル:	1.5m USB 2.0 Type-C to USB Type-C 1.5m USB 2.0 Type-C to USB Type-A

DSPミキサー・レンテンシー:	(往復タイム)
	44.1kHz 0.677ms
	48.0kHz 0.625ms
	88.2kHz 0.354ms
	96.0kHz 0.323ms

デジタル入力

16-CHANNEL ADAT:	44.1kHz to 48.0kHz
8-CHANNEL ADAT:	88.2kHz to 96.0kHz SMUX
STEREO S/PDIF:	44.1kHz to 96.0kHz (ステレオ)



品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合がございます。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、ご購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Web : www.allaccess.co.jp

Mail : audient@allaccess.co.jp

Glossary

A	Amperes
ADAT	Alesis Digital Audio Tape
ADC	Analogue to Digital Converter
DAW	Digital Audio Workstation
ASP	Analogue Signal Processing
CPU	Central Processing Unit
CUE	Artist Headphone Mix
DAC	Digital to Analogue Converter
dB	Decibel
dBu	Decibel referenced to 0.775Vrms = 0 dBu
dBFS	Decibel Full Scale
DC	Direct Current
D.I	Direct Injection (Instrument Input)
DoC	Declaration of Conformity
DSP	Digital Signal Processing
EQ	Equaliser
FAQ	Frequently Asked Questions
FCC	Federal Communications Commission
GB	Gigabyte
GUI	Graphical User Interface
HPF	High Pass Filter
HV	High Voltage
i/o	Input / Output
JFET	Junction Field Effect Transistor
LED	Light Emitting Diode
RoHS	Restriction of Hazardous Substances
RAM	Random Access Memory
S/PDIF	Sony Philips Digital Interface Format
THD+N	Total Harmonic Distortion + Noise
TRS	Tip Ring Sleeve (1/4" Jack Balanced)
TS	Tip Sleeve (1/4" Jack Unbalanced)
USB	Universal Serial Bus
V	Volts
XLR	Extra Live Return, Extremely Low Resistance, Canon X Series, Latching, Resilient Rubber Compound... or make up your own!

AUDIENT

audient 日本輸入総代理店

オールアクセスインターナショナル株式会社

WEB : www.allaccess.co.jp/audient/

E-mail : audient@allaccess.co.jp

〒490-1116 愛知県あま市本郷三反地21番地